

本章の趣旨:

クルアーンによる嘲笑者たちへの警告と、預言者への支援と励ましとしてのその(クルアーン)の保護の約束。

説明:

①「アリフ・ラーム・ラー」については、雌牛章冒頭に同様の節の説明あり。これらの節は高い徳があり、アッラーの唯一性と法を明らかにする、アッラーの御許から下されたクルアーンである。

②審判の日、不信仰者たちは事が明らかになり、現世におけるかれらの不信仰の虚偽が明白になった時、ムスリムであったならと望むことになる。

③使徒よ、かれら嘘よばわりする者たちは、家畜が食べるように食べ、現世の消え行く快樂を楽しみ、楽観的な希望で信仰と正しい行いを放ったらかしにしている。かれらは審判の日にアッラーの御許へと向かう時、自分たちの損失を知ることになる。

④われらが不正な(民の)町を滅ぼすのは、アッラーの御許で定められた期限に基づいてである。それは早まることも遅れることもない。

⑤期限の到来前に民が減ぶことはなく、期限の到来後に滅亡が延期されることもない。不正者たちはアッラーからの猶予に、思い上がってはならない。

⑥マッカの不信仰者たちは、使徒に言った。「訓戒を授かったと主張する者よ、あなたはその主張で狂人のように振る舞っている。」

⑦あなたの証人となる天使たちを連れて来てみや、もしあなたが本当に遣わされた預言者で、わたしたちに懲罰が下るといふのなら、

⑧アッラーは天使たちを下す求めについて、言った。「あなたがたを滅ぼす時期が英知にかなう状況にならない限り、われらが天使を下すことはない。そしてわれらが天使を下し、あなたがたが信じなければ、もはやあなたがたへの猶予はなく、罰が早急に下されることになる。」

⑨われらが人々への訓戒としてムハンマドの心にクルアーンを下したのであり、われらが追加・削除・改変などからクルアーンを守る者なのだ。

⑩使徒よ、われらはあなた以前、過去の不信仰の集団に使徒たちを遣わしたが、かれらは嘘よばわりされた。あなたは自分の民から嘘よばわりされた、初めての使徒ではない。

⑪過去に不信仰の集団のもとに到来した使徒は皆、嘘つきよばわりされ、嘲笑されたのだ。

⑫それらの民の心に嘘よばわり(の考え)を吹き込んだように、われらはマッカの多神教徒たちの心にも、それを吹き込む。それはかれらの不服従と頑迷さのためである。

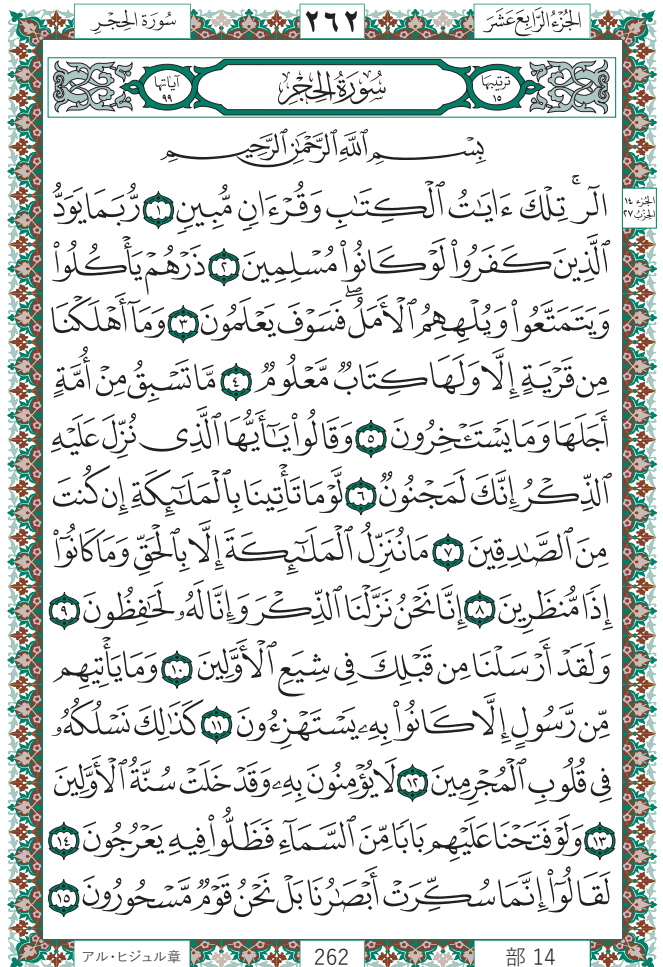
⑬使徒が伝えることを嘘よばわりする者たちは滅ぼされるという、アッラーの習いが履行されてきたにも関わらず、ムハンマドに下されたこのクルアーンをかれらは信じない。嘘よばわりする者たちには、あなたから教訓を得させよ。

⑭嘘よばわりする者たちは、たとえ明白な根拠と共に真理が明らかになっても頑迷である。たとえ、われらがかれらに天の扉を開き、そこからかれらが昇り続けたとしても、

⑮かれらは信じず、こう言っただろう。「わたしたちの目はふさがれてしまった。わたしたちが見ているのは魔術の影響に他ならず、わたしたちは魔術にかかっているのだ。」

本諸節の功德:

- クルアーンはその明白さ、説明など全てにおいて完全さを結集している。
- 不信仰者たちは物質面に關心を持つのが常であり、欲望に溺れ、根拠のない望みに欺かれ、来世ではなく現世に勤しむ。
- 民が滅亡する時期とその寿命は定められており、その時期が早まることも遅れることもない。
- アッラーは審判の日まで、クルアーンが改ざんされたり、追加・削除が行われたりすることからお守りになる。



16 وَلَقَدْ جَعَلْنَا فِي السَّمَاءِ بُرُوجًا وَرَيَيْنَاهَا لِلنَّظِيرِينَ
 17 وَحَفَظْنَاهَا مِنْ كُلِّ شَيْطَانٍ رَجِيمٍ ۝۱۷ إِلَّا مِنْ أَسْتَرَقَ السَّمْعَ
 18 فَأَتْبَعَهُ وَشَهَابٌ مُمِينٌ ۝۱۸ وَالْأَرْضَ مَدَدْنَاهَا وَأَلْقَيْنَا فِيهَا
 19 رَوَاسِيَ وَأَنْبَتْنَا فِيهَا مِنْ كُلِّ شَيْءٍ مَّوْرُونٍ ۝۱۹ وَجَعَلْنَا الْكُرُ
 20 فِيهَا مَعَايِشَ وَمَنْ لَسْتُمْ لَهُ بِرَازِقِينَ ۝۲۰ وَإِنْ مِنْ شَيْءٍ إِلَّا
 21 عِنْدَنَا خِزْيَانُهُ وَمَا نُنزِلُهُ إِلَّا بِقَدَرٍ مَعْلُومٍ ۝۲۱ وَأَرْسَلْنَا
 22 الرِّيحَ لَوَاقِحَ فَأَنْزَلْنَا مِنَ السَّمَاءِ مَاءً فَأَسْقَيْنَاكُمُوهُ وَمَا أَنْتُمْ
 23 لَهُ بِخَازِنِينَ ۝۲۳ وَإِنَّا لَنَحْنُ نُحْيِيهِ وَنُمِيتُهُ وَنَحْنُ الْوَارِثُونَ ۝۲۳
 24 وَلَقَدْ عَلِمْنَا الْمُسْتَقْدِمِينَ مِنْكُمْ وَلَقَدْ عَلِمْنَا الْمُسْتَأْخِرِينَ
 25 ۝۲۴ وَإِنَّ رَبَّكَ هُوَ يَحْشُرُهُمْ إِنَّهُ حَكِيمٌ عَلِيمٌ ۝۲۵ وَلَقَدْ خَلَقْنَا
 26 الْإِنْسَانَ مِنْ صَلْصَلٍ مِنْ حَمَإٍ مَسْنُونٍ ۝۲۶ وَالْجَانَ خَلَقْتَهُ مِنْ
 27 قَبْلُ مِنْ نَارِ السَّمُومِ ۝۲۷ وَإِذْ قَالَ رَبُّكَ لِلْمَلَكَةِ إِنِّي خَالِقٌ بَشَرًا
 28 مِنْ صَلْصَلٍ مِنْ حَمَإٍ مَسْنُونٍ ۝۲۸ فَاذْأَسْوَيْتَهُ وَوَفَعَتْ فِيهِ
 29 مِنْ رُوحِي فَفَعُوهُ لَهُ وَسَجَدُوا لَهُ ۝۲۹ فَسَجَدَ الْمَلَائِكَةُ كُلُّهُمْ
 30 أَجْمَعُونَ ۝۳۰ إِلَّا إِبْلِيسَ أَبَى أَنْ يَكُونَ مَعَ السَّاجِدِينَ ۝۳۱

に生まれ死ぬ者も知っている。**われら**が知らないことはない。

25 使徒よ、主は審判の日、かれら全員を集めるお方。それは善行者には善で、悪行者には悪で報いるため。**かれ**はその采配において英知にあふれ、全てをご存知のお方。

26 **われら**はアーダムを、叩けば鳴るような乾いた土から創った。長期間を経たために臭いに変化した、黒い土からである。

27 アーダムの創造以前、**われら**はジンの祖を灼熱の炎から創った。

28 使徒よ、主が天使たちとイブリースに、こう言ったことを思い出させよ。「**われ**は、臭いに変化し、叩けば鳴るような、乾いた黒い土から、人間を創る。

29 **われ**がその形を整え、その創造を完成させたら、かれにサジダせよ。**われ**の命令に従い、かれに挨拶するためである。」

30 天使たちは従い、主の命令通りに皆サジダした。

31 しかし天使たちと共にあったイブリースは別で、かれらと一緒にアーダムにサジダすることを拒んだ。

本諸節の功德:

- 人は天とその飾りを見て熟考し、創造主の存在の証明とすべきである。
- 諸々の糧と定めはアッラーだけが有する。英知とお慈悲に添って、それらをお望みの者に与え、禁じる。
- 大地は人間の生活に適するように平坦に広げられた。そこには人々が揺れ動かないように堅固な山々が置かれ、英知と福利によって一定の性質に定められた多様な植物がある。
- アーダムに対する天使たちへのサジダの命令は、人間の高貴さを表している。

16 **われら**は天に大きな星々を創った。人々はそれにより、大地と海の間における旅で導かれる。またそれを見る者のために美しくしたが、それはかれらがアッラーの御力を知るためである。

17 **われら**は天を、アッラーのお慈悲から見放された、あらゆる悪魔から守った。

18 ただし、天上の民を盗み聞きし、きらめく惑星の追撃を受けて燃え尽きる者は別。

19 **われら**は人々が定住するよう大地を広げ、人々が揺れ動かないよう、堅固な山々をそこに置いた。また、英知によって定められた、様々な種類の植物をそこに生育させた。

20 人々よ、**われら**は大地にあなたがたのため、現世にいる限りはあなたがたの生活を維持する、飲食物を創った。また、あなたがたが食べさせるわけではない人々や動物にも、生活を維持するものを創った。

21 人々や動物の役に立つものは全て、**われら**が存在させ、役立たせる。**われら**は、**われら**の英知と意思によって定められた量を存在させる。

22 **われら**は風を送り雲に受粉させ、そこから雨を降らせ、あなたがたに雨水から飲ませた。人々よ、あなたがたはそれを地上に留めて、泉や井戸には出来ない。それをそこに留めるのは、アッラーである。

23 **われら**は無の状態からの創造、死後の復活により、かれらに生を与える。また寿命を全うしたら、**かれら**に死を与える。**われら**は大地とそこにあるものを引き継ぐ、永続者である。

24 **われら**は、あなたがたより先に生まれ死んだ者も、後

قَالَ يَا إِبْلِيسُ مَا لَكَ أَلَّا تَكُونَ مَعَ السَّاجِدِينَ ﴿٣٣﴾ قَالَ لَمَ أَكُنْ
 لِأَسْجُدْ لِبَشَرٍ خَلَقْتَهُ وَمِنْ صَلَاحٍ لِي مِنْ حَمِيمٍ مَسْنُونٍ ﴿٣٤﴾
 قَالَ فَأَخْرِجْ مِنْهَا فَإِنَّكَ رَجِيمٌ ﴿٣٥﴾ وَإِنَّ عَلَيْكَ اللَّعْنَةَ إِلَى يَوْمِ
 الدِّينِ ﴿٣٦﴾ قَالَ رَبِّ فَأَنْظِرْنِي إِلَى يَوْمِ يُبْعَثُونَ ﴿٣٧﴾ قَالَ فَإِنَّكَ
 مِنَ الْمُنظَرِينَ ﴿٣٨﴾ إِلَى يَوْمِ الْوَقْتِ الْمَعْلُومِ ﴿٣٩﴾ قَالَ رَبِّ بِمَا
 أَغْوَيْتَنِي لَأَرِيَنَّهُمْ فِي الْأَرْضِ وَأَلْعَنِيَنَّهُمْ أَجْمَعِينَ ﴿٤٠﴾
 إِلَّا عِبَادَكَ مِنْهُمُ الْمُخْلَصِينَ ﴿٤١﴾ قَالَ هَذَا صِرَاطٌ عَلَيَّ
 مُسْتَقِيمٌ ﴿٤٢﴾ إِنَّ عِبَادِي لَيْسَ لَكَ عَلَيْهِمْ سُلْطَانٌ إِلَّا الَّذِينَ
 اتَّبَعَكَ مِنَ الْغَاوِينَ ﴿٤٣﴾ وَإِنَّ جَهَنَّمَ لَمَوْعِدُهُمْ أَجْمَعِينَ ﴿٤٤﴾
 لَهَا سَبْعَةُ أَبْوَابٍ لِكُلِّ بَابٍ مِنْهُمْ جُزْءٌ مَقْسُومٌ ﴿٤٥﴾ إِنَّ
 الْمُتَّقِينَ فِي جَنَّاتٍ وَعُيُونٍ ﴿٤٦﴾ آدْحُلُوهَا بِسَلْوَةٍ أَمِينٍ ﴿٤٧﴾
 وَتَرَعْنَا مَا فِي صُدُورِهِمْ مِنْ غَلٍّ إِخْوَانًا عَلَى سُرُرٍ مُتَقَابِلِينَ ﴿٤٨﴾
 لَا يَمَسُّهُمْ فِيهَا نَصَبٌ وَمَا هُمْ مِنْهَا بِمُخْرَجِينَ ﴿٤٩﴾
 * نَحْيَ عِبَادِي أَيُّ أَنَا الْغَفُورُ الرَّحِيمُ ﴿٥٠﴾ وَأَنَّ عَذَابُكَ
 هُوَ الْعَذَابُ الْأَلِيمُ ﴿٥١﴾ وَبَدَّاهُمْ عَنْ ضَيْفِ إِبْرَاهِيمَ

الجزء الرابع عشر

32) アッラーはイブリースがサジダを拒んだ後、言った。「なぜ**われら**の命令に従った天使たちと一緒に、サジダしなかった？」

33) イブリースは高慢になって言った。「変質した黒い土の乾燥したものから創られた人間に、サジダするわけにはいきません。」

34) アッラーはイブリースに言った。「出て行け。あなたは放逐された者である。」

35) あなたには審判の日まで、わが呪いがあり、わが慈悲から遠ざけられる。」

36) イブリースは言った。「主よ、わたしに猶予を下さい。被造物が復活させられる日まで、わたしを死なせないで下さい。」

37) アッラーは言った。「あなたの期限を遅らせ、猶予しよう。」

38) 最初の角笛が吹かれ、全ての被造物が死ぬ時まで。」

39) イブリースは言った。「主よ、あなたがわたしを迷わせたのですから、わたしは地上でかれらに罪を輝かしく見せましょう。かれら全員をまっすぐな道から、迷わせましょう。」

40) あなたがあなたの崇拜のため、選んだ僕たちは別ですが。」

41) アッラーは言った。「これが**われ**へと続く、まっとうな道。」

42) 誠実なわが僕たちを迷わせる力は、あなたにはない。ただし、あなたに従った迷った者たちは別だが。」

43) 地獄はイブリースと、かれに従った全ての者たちの約束の場。

44) 地獄にはかれらが入る、7つの門がある。各門には一定数のイブリースの追従者があり、そこから地獄に入る。

45) 主の命令と禁止事項を守ることによって恐れる者は、天国と泉の中。

46) そこに入る時、かれらにはこう言われる。「害悪も恐怖からも安全な状態で入れ。」

47) **われら**はかれらの胸中の憎しみや敵意を取り除く。かれらは互いに愛し合う同胞であり、向かい合いながらベッドに座る。

48) かれらは疲れを覚えることも、そこから出されることもなく、永遠にそこに留まる。

49) 使徒よ、わが僕たちに伝えよ。悔悟する者に**われ**が赦し深く、慈悲深いということを。

50) かれらに伝えよ。わが罰が痛烈であり、わが赦しを得、わが罰から逃れるために、**われ**に悔悟せよと。

51) また、イブラーヒームの客人の話も伝えよ。かれらは、男児の誕生とルートの民の滅亡の吉報を持ってきた天使たちである。

本諸節の功德:

- これらの諸節には、敬虔な者たちの互いの訪問と交流、そこにおけるよい礼儀作法の証拠がある。彼らは天国においても互いに顔を向け合っており、背中を向け合っていない。
- 僕の心は常に、吉報への希望と警告に対する恐怖の中間にあるべきである。
- 天使たちは皆、挨拶と敬意の意味でアダムにサジダした。イブリースだけが例外で、それを拒否した。
- アッラーが導き選んだ者たちを、アッラーの赦しから阻まれるような罪に陥れる力は、イブリースにない。

إِذْ دَخَلُوا عَلَيْهِ فَقَالُوا سَلَامًا قَالَ إِنَّا مِنْكُمْ وَجِلُونَ ﴿٥٢﴾ قَالُوا
 لَا تَوْجَلْ إِنَّا نُبَشِّرُكَ بِغُلَامٍ عَلَيْكَ ﴿٥٣﴾ قَالَ أَمْثُرْتُمُونِي عَلَىٰ أَنْ
 مَسَّنِيَ الْكِبَرُ فِيهِ تَبَشِّرُونَ ﴿٥٤﴾ قَالُوا بَشِّرْنَاكَ بِالْحَقِّ
 فَلَا تَكُن مِّنَ الْقٰذِبِينَ ﴿٥٥﴾ قَالَ وَمَنْ يَقْضُ مِنْ رَّحْمَةِ
 رَبِّيهِ إِلَّا الصَّالُونَ ﴿٥٦﴾ قَالَ فَمَا خَطْبُكُمْ أَيُّهَا الْمُرْسَلُونَ
 ﴿٥٧﴾ قَالُوا إِنَّا أُرْسِلْنَا إِلَىٰ قَوْمٍ مُّجْرِمِينَ ﴿٥٨﴾ إِيَّاكَ أَل لُّوطِ
 إِنَّا لَمُنْجُوهُمْ أَجْمَعِينَ ﴿٥٩﴾ إِلَّا أَمْرًا تَهُدُّنَا إِنَّا تَهَايَمْنَا
 الْغَابِرِينَ ﴿٦٠﴾ فَلَمَّا جَاءَ آلَ لُوطِ الْمُرْسَلُونَ ﴿٦١﴾ قَالَ
 إِنَّكُمْ قَوْمٌ مُّكْرُونَ ﴿٦٢﴾ قَالُوا بَلْ جِئْنَاكَ بِمَا كَانُوا فِيهِ
 يَمْتَرُونَ ﴿٦٣﴾ وَأْتَيْنَاكَ بِالْحَقِّ وَإِنَّا لَصٰدِقُونَ ﴿٦٤﴾ فَأَسْرِ
 بِأَهْلِكَ بِقِطْعٍ مِّنَ اللَّيْلِ وَاتَّبِعْ أَدْبُرَهُمْ وَلَا يَلْتَفِتْ مِنْكُمْ أَحَدٌ
 وَامْضُ وَأَحِثْ ثُؤْمُرَكَ ﴿٦٥﴾ وَفَضِينَا إِلَيْهِ ذَلِكَ الْأَمْرُ
 ذٰبِرَهُؤُلَاءِ مَقْطُوعٌ مُّصْبِحِينَ ﴿٦٦﴾ وَجَاءَ أَهْلَ الْمَدِينَةِ
 يَسْتَشِيرُونَ ﴿٦٧﴾ قَالَ إِنَّ هٰؤُلَاءِ ضَيْفِي فَلَا تَفْضَحُونِ ﴿٦٨﴾
 وَاتَّقُوا اللَّهَ وَلَا تُخْزُونِ ﴿٦٩﴾ قَالُوا أَوَلَمْ نَنْهَكَ عَنِ الْعَالَمِينَ ﴿٧٠﴾

〔52〕かれらはかれ(イブラーヒーム)のもとにやって来ると、言った。「平安あれ。」かれはそれよりもよい挨拶で応えると、子牛の焼肉を食事に差し出した。かれはかれらが人間だと思ったのだが、かれらがそれを食べないので、言った。「わたしたちは、あなたがたが恐い。」

〔53〕天使たちは、言った。「恐がるな。わたしたちはあなたに、賢い男児が授かるとの吉報を伝える。」

〔54〕イブラーヒームは男児の吉報に驚いて言った。「わたしは年寄だというのに、そのような吉報がありますか?」

〔55〕天使たちは、言った。「わたしたちはあなたに、疑いのない真実を吉報として伝えた。わたしたちの吉報に対して、失望するのではない。」

〔56〕イブラーヒームは言った。「アッラーの真っ直ぐな道から外れた者以外、アッラーのお慈悲に失望しましょうか?」

〔57〕イブラーヒームは言った。「アッラーのみ使いたちよ、あなたがたはなぜいらっしゃったのですか?」

〔58〕天使たちは、言った。「わたしたちはひどい悪と退廃の民である。ルートの民を滅ぼすためアッラーから遣わされた。」

〔59〕しかしルートの家族と、かれに従った信仰者たちは別で、滅ぼされない。わたしたちはかれらを守る。

〔60〕ただしかれ(ルート)の妻は、残って滅ぼされる者となることを、わたしたちに決められた。」

〔61〕遣わされた天使たちが、ルートの一族のところへ男性の姿でやって来た時、

〔62〕ルートは言った。「知らない民だ。」

〔63〕天使たちは、言った。「恐がるな。ルートよ、わたしたちはあなたの民が疑っている、滅亡の罰と共にやって来たのだ。」

〔64〕わたしたちはふざげごとではなく、真理と共にやって来た。わたしたちの言うことは、本当だ。

〔65〕夜の一部が過ぎてから、あなたの家族と共に行け。あなたはかれらの最後尾につくのだ。かれらに降りかかったことを見ようと、誰も後ろを振り返らせてはならない。アッラーから命じられた所まで、歩み続けるのだ。」

〔66〕朝が来たら、かれらが一人残さず滅ぼされるということは、**われら**の定め。**われら**はそのように、ルートに啓示して伝えた。

〔67〕サドームの人々が、ルートの客人にみだらなことをしようと、喜んでやって来た。

〔68〕ルートは言った。「かれらは、わが客人だ。あなたがたのかれらに対する欲望で、わたしに恥をかかせるな。」

〔69〕みだらなことをやめ、アッラーを恐れよ。醜い行いでわたしを貶めるのではない。」

〔70〕民は言った。「わたしたちは、人を客として迎えるのを、あなたに禁じたのではなかったか?」

本諸節の功德:

●他の民を訪れた際の、客人の挨拶の作法。

●導きと偉大な知識に恵まれた者が、アッラーのお慈悲から絶望することはない。

●アッラーは、ルートとその追隨者らに、ルートの民に罰が下る際に振り向くのを禁じた。それはかれらが同情心を持ってしまわないようにするためである。

●客人に対するルートの民のみだらな計画は、かれらの天性の喪失と、低劣さの印である。

قَالَ هَؤُلَاءِ بَنَاتِي إِن كُنتُمْ فَاعِلِينَ ﴿٧١﴾ لَعَمْرُكَ إِنَّهُمْ لَفِي سَكْرَتِهِمْ
 يَعْمَهُونَ ﴿٧٢﴾ فَأَخَذَتْهُمُ الصَّيْحَةُ مُشْرِقِينَ ﴿٧٣﴾ فَجَعَلْنَا عَلَيْهَا
 سَابِقَهَا وَأَمْطَرْنَا عَلَيْهِمْ حِجَارَةً مِن سِجِّيلٍ ﴿٧٤﴾ إِنَّ فِي ذَلِكَ
 لَآيَاتٍ لِّمَن تَوَسَّعَ فِي سَبِيلِ اللَّهِ ﴿٧٥﴾ وَإِنَّهَا لَلسَّبِيلُ الْمُقِيمِ ﴿٧٦﴾ إِنَّ فِي ذَلِكَ
 لَآيَةً لِّلْمُؤْمِنِينَ ﴿٧٧﴾ وَإِن كَانَ أَصْحَابُ الْأَيْكَةِ لَظَالِمِينَ ﴿٧٨﴾
 فَانقَمْنَا مِنْهُمْ وَإِنَّهُمَا لِيَا مَامُومِينَ ﴿٧٩﴾ وَلَقَدْ كَذَّبَ أَصْحَابُ
 الْحِجْرِ الْمُرْسَلِينَ ﴿٨٠﴾ وَءَاتَيْنَهُمْ آيَاتِنَا فَكَأَنَّهُمْ مُّعْزِضِينَ
 ﴿٨١﴾ وَكَأَنُوا يَنْجِحُونَ مِنَ الْجِبَالِ بُيُوتًا أَمِينِينَ ﴿٨٢﴾ فَأَخَذَتْهُمُ
 الصَّيْحَةُ مُصْبِحِينَ ﴿٨٣﴾ فَمَا أَغْنَى عَنْهُمْ مَا كَانُوا يَكْسِبُونَ ﴿٨٤﴾
 وَمَا خَلَقْنَا السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ وَمَا بَيْنَهُمَا إِلَّا بِالْحَقِّ وَإِنَّ
 السَّاعَةَ لَآتِيَةٌ فَاصْفَحِ الصَّفْحَ الْجَمِيلَ ﴿٨٥﴾ إِنَّ رَبَّكَ هُوَ
 الْخَلِيقُ الْعَلِيمُ ﴿٨٦﴾ وَلَقَدْ ءَاتَيْنَاكَ سَبْعًا مِّنَ الْمَثَانِي
 وَالْقُرْءَانَ الْعَظِيمَ ﴿٨٧﴾ لَا تَمُدَّنَّ عَيْنَيْكَ إِلَىٰ مَا مَتَّعْنَا بِهِ أَزْوَاجًا
 مِنَّهُمْ وَلَا تَحْزَنَ عَلَيْهِمْ وَخَفَضْ جَنَاحَكَ لِلْمُؤْمِنِينَ ﴿٨٨﴾ وَقُلْ
 إِنِّي أَنَا النَّذِيرُ الْمُبِينُ ﴿٨٩﴾ كَمَا أَنْزَلْنَا عَلَى الْمُقْتَسِمِينَ ﴿٩٠﴾

71 ルートは客人の前で、言った。「これらはあなたがたの女性である、わが娘たちだ。欲望を解消したいのなら、彼女たちと結婚せよ。」

72 使徒よ、あなたの人生にかけて。ルートの民は欲望の渦の中を右往左往している。

73 そして日が昇る時、かれらを滅ぼす大響音がとらえた。

74 われらはかれらの町を反転して逆さまにし、そこに石と化した土の雨を降らせた。

75 ルートの民の滅亡には、熟慮する者にとっての印がある。

76 ルートの民の町はしっかりとした道の上であり、そこを通る旅行者はそれを目にする。

77 その出来事の中には、信者が訓戒とする印がある。

78 シュアイブの民は、木々が生い茂る町の民で、不正者だった。アッラーを否定し、その使徒シュアイブを嘘つきとした。

79 われらはかれらを罰でとらえ、報復した。ルートの民の町とシュアイブの民の住みかは、そこを通る者にとって、明白な道の上にある。

80 ヒジュル(ヒジャーズ地方とシャーム地方の間にある場所)の民、サムードはかれらの預言者サーリフを嘘よばわりし、全ての預言者を嘘とした。

81 われらはかれ(サーリフ)に、かれが伝えることにおける正直さの根拠を授けた。その一つが雌ラクダである。しかしかれらは、その印を気にとめなかった。

82 かれらは山を削って、安全な住居とした。

83 朝の時間、罰の一声がかれらをとらえた。

84 かれらの財産や住居が、アッラーの罰からかれらを守ってくれはしなかった。

85 われらは天地とその間にあるものを、英知もなく、いたずらに創造したわけではない。われらがそれらを創造したのは、真理のため。審判の時は必ず到来する。使徒よ、あなたを嘘よばわりする者から離れ、かれらをきれいに赦してやれ。

86 使徒よ、主は全ての創造主であり、それらをご存知のお方。

87 われらは7節から成り、偉大なるクルアーンである開端章をあなたに授けた。

88 われらが不信仰者のある種の者たちに与えたはかない楽しみに、目を奪われてはならない。かれらの嘘よばわりに悲しむな。信徒には謙虚であれ。

89 使徒よ、言え。「わたしは罰を、明白に警告する者。」

90 アッラーの啓典をばらばらにし、その一部だけ信じて残りは信じなかった者たちに降りかかったのと同様のものを、あなたがたに警告する。

本諸節の功德:

- アッラーはある町を滅ぼそうとお望みになる時、その民の悪と反抗を増大させる。そして最後に、かれらにふさわしい罰を下す。
- 罰が降りかかった場所や、不信仰者の墓地に入ることは忌避される。そのような場所に入ったら、足を速めるべきである。
- 信徒は、現世の装飾や華やかさを見るべきではなく、アッラーの御許にある恩恵を見るべきである。
- 信徒は多神教徒から遠ざかるべきで、彼らの不信仰に悲しんではいならない。たとえ貧しかったとしても信徒の近くにあり、かれらに対して愛情深く謙虚であるべきである。

الَّذِينَ جَعَلُوا الْقُرْءَانَ عَضِينَ ﴿٩١﴾ فَوَرِيدًا لَتَمَسَّكَنَّهُمْ
 أَجْمَعِينَ ﴿٩٢﴾ عَمَّا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿٩٣﴾ فَأَصْدَعَ يَمَانُوتُمْ وَأَعْرَضَ
 عَنِ الْمُشْرِكِينَ ﴿٩٤﴾ إِنَّا كَفَيْنَاكَ الْمُسْتَهْزِئِينَ ﴿٩٥﴾ الَّذِينَ
 يَجْعَلُونَ مَعَ اللَّهِ إِلَهًا آخَرَ فَسَوْفَ يَعْمَلُونَ ﴿٩٦﴾ وَلَقَدْ نَعْلَمُ
 أَنَّكَ يَضِيقُ صَدْرُكَ بِمَا يَقُولُونَ ﴿٩٧﴾ فَسَبِّحْ بِحَمْدِ رَبِّكَ وَكُنْ
 مِنَ السَّاجِدِينَ ﴿٩٨﴾ وَاعْبُدْ رَبَّكَ حَتَّىٰ يَأْتِيَكَ الْيَقِينُ ﴿٩٩﴾

انفا
١٨٨

سُورَةُ النَّازِعَاتِ

ترتيبها
١٩

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

أَنِّي أَمْرُ اللَّهِ فَلَا تَسْتَعْجِلُوهُ سُبْحَانَهُ وَتَعَالَىٰ عَمَّا يُشْرِكُونَ ﴿١﴾
 يُنزِلُ الْمَلَائِكَةَ بِالرُّوحِ مِنْ أَمْرِهِ عَلَىٰ مَنْ يَشَاءُ مِنْ
 عِبَادِهِ أَنْ أَنْذِرُوا أَنَّهُ لَا إِلَهَ إِلَّا أَنَا فَاتَّقُونِ ﴿٢﴾ خَلَقَ
 السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ بِالْحَقِّ تَعَالَىٰ عَمَّا يُشْرِكُونَ ﴿٣﴾ خَلَقَ
 الْإِنْسَانَ مِنْ نُطْفَةٍ فَإِذَا هُوَ خَصِيمٌ مُّبِينٌ ﴿٤﴾ وَالْأَنْعَامَ
 خَلَقَهَا لَكُمْ فِيهَا دِفْءٌ وَمَنْفَعٌ وَمِنْهَا تَأْكُلُونَ ﴿٥﴾
 وَلَكُمْ فِيهَا جَمَالٌ حِينَ تُرِيحُونَ وَحِينَ تَسْرَحُونَ ﴿٦﴾

النزاع
٢٧

91)かれらはクルアーンをばらばらにし、それを魔術だとか、占いだとか、詩だと言った。

92)使徒よ、主に誓って。**われら**は審判の日、クルアーンをばらばらにした者たち全員に問おう。

93)現世でかれらが行っていた不信仰や罪について、かれらに問おう。

94)使徒よ、布教せよとのアッラーからの命令を布告し、多神教徒の言動を気にはならない。

95)かれらを恐れるな。あなたを嘲笑している、クライシュ族の不信仰者の指導者たちのたくらみから、**われら**はあなたを守ったのだ。

96)かれらはアッラーをよそに、別のものを崇拝している。多神教ゆえの悪い結末を、かれらはやがて知るだろう。

97)使徒よ、かれらの嘘よばわりや嘲笑のため、あなたが心苦しんでいるのを**われら**は知っている。

98)アッラーが**かれ**にふさわしくないことから無縁だとし、その完全なる属性によって賛美しつつ、アッラーに避難せよ。アッラーへの崇拝者、礼拝者となれ。そこにこそ、心苦しさいやしはある。

99)主の崇拝を続け、生きている限りそうせよ。死が訪れるまで、その状態であれ。

16. 蜜蜂章(アン・ナフル)

マッカ啓示

本章の趣旨:

至高にして完全無欠な恩恵の主の印である、恩恵への喚起。

説明:

1)不信仰者よ、アッラーが定めたあなたがたの罰は近づいた。だからその時が来るよりも前に、それへと急ぐのではない。アッラーは、多神教徒たちが**かれ**の同位者としているものより、高くおられるお方。

2)アッラーはその定めにより、お望みになる使徒に、啓示を携えた天使たちを下す。そして命じる。「使徒たちよ、人々に多神教を警告せよ。**われ**以外に崇拝すべき存在はない。人々よ、**われ**の命令と禁止を守ることによって、**われ**を畏れるのだ。」

3)アッラーは前例のない形で、真理によって天地を創造した。それらを無駄に創ったのではなく、**かれ**の偉大さの印として創造した。**かれ**はかれらが同位とするものより、高くおられるお方。

4)**かれ**は人間を申し一滴から創造し、それを創造の段階を経て成長させる。しかしかれ(人間)は真理を抹消しようと、虚偽によって激しく公然と議論する。

5)人々よ、**かれ**はラクダ、牛、羊といった家畜を、あなたがたの利益のために創造した。その利益としては、それらの毛、乳、革などがあり、あなたがたはそれらに乗ったり、それらを食べたりもする。

6)それらを夕に収容し、朝に放牧地へと駆り出す時、そこにはあなたがたにとっての美しさがある。

本諸節の功德:

- アッラーはその配慮により、預言者を多神教徒からの害からお守りになる。
- アッラーへの賛美や礼拝は悩みや悲しみをいやし、危機的な状況からの救いとなる。
- ムスリムは理性が衰えない限り、死ぬまで礼拝を続ける義務がある。
- アッラーは啓示を魂と呼ばれたのは、それで精神が蘇るからである。
- アッラーは家畜や動物をわたしたちに所有させ、仕えさせた。それを利用できることは、かれからのお慈悲である。

وَتَحْمِلْ أَثْقَالَكُمْ إِلَىٰ بَدَلٍ لَّمْ تَكُونُوا بِلُغْيِهِ إِلَّا بِشِقِّ
 الْأَنْفُسِ إِنَّ رَبَّكُمْ لَرءُوفٌ رَّحِيمٌ ﴿٧﴾ وَالنَّخِيلَ وَالْأَيْغَالَ
 وَالْحَمِيرَ لَتَرَكِبُوهَا وَزِينَةً وَيَخْلُقُ مَا لَا تَعْلَمُونَ ﴿٨﴾
 وَعَلَى اللَّهِ قَصْدُ السَّبِيلِ وَمِنْهَا جَائِرٌ وَلَوْ شَاءَ لَهَدَاكُمْ
 أَجْمَعِينَ ﴿٩﴾ هُوَ الَّذِي أَنْزَلَ مِنَ السَّمَاءِ مَاءً لَكُمْ
 مِنْهُ شَرَابٌ وَمِنْهُ شَجَرٌ فِيهِ تُسِيمُونَ ﴿١٠﴾ يُبْدِئُ لَكُمْ
 بِهِ الزَّرْعَ وَالزَّيْتُونَ وَالنَّخِيلَ وَالْأَعْنَابَ وَمِنْ كُلِّ
 الثَّمَرَاتِ إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَةً لِّقَوْمٍ يَتَفَكَّرُونَ
 ﴿١١﴾ وَسَخَّرَ لَكُمْ الَّيْلَ وَالنَّهَارَ وَالشَّمْسَ وَالْقَمَرَ
 وَالنُّجُومَ مُسَخَّرَاتٍ بِأَمْرِ رَبِّ إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَاتٍ لِّقَوْمٍ
 يَعْقِلُونَ ﴿١٢﴾ وَمَا ذَرَأَ لَكُمْ فِي الْأَرْضِ مُخْتَلِفًا
 أَلْوَانُهُ إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَةً لِّقَوْمٍ يَذَّكَّرُونَ ﴿١٣﴾
 وَهُوَ الَّذِي سَخَّرَ الْبَحْرَ لِتَأْكُلُوا مِنْهُ لَحْمًا طَرِيًّا
 وَتَسْتَخْرِجُوا مِنْهُ حِلْيَةً تَلْبَسُونَهَا وَتَرَى الْفَلَكَ مَوَازِرَ
 فِيهِ وَلِتَبْتَغُوا مِنْ فَضْلِهِ وَلِعَلَّكُمْ تَشْكُرُونَ ﴿١٤﴾

⑦ われらがあなたがたのために創ったこれらの家畜は、多大な苦勞なしには到達できないような国への旅行で、重い荷物を運んでくれる。人々よ、主はこれらの家畜をあなたがたに教えさせた、お優しいお方である。

⑧ アッラーはあなたがたが乗り、荷物を運び、飾りとするために、馬、ラバやロバを創った。また、かれが創造をお望みになった、あなたがたが知らないものを創った。

⑨ かれのお喜びへと到達させてくれる、まっすぐな道、つまりイスラームを明示するのはアッラーの義務。数ある道の中には悪魔の道もあるが、イスラーム以外はみな真理から逸脱している。もしアッラーがあなたがた全員を信仰へと導くことを望んでいたなら、そうしていただろう。

⑩ かれはあなたがたに、雲から雨を降らせるお方。あなたがたの家畜は、その水から飲む。またそれによって、あなたがたが家畜に食べさせる木々の生育が得られる。

⑪ アッラーはその水であなたがたが食べる作物を生育させ、オリーブ、ナツメヤシ、ブドウ、あらゆる果実を生育させる。水とそこから生じるものの中には、創造を熟慮し、そこにアッラーの偉大さを見出す民にとって、かれのお力を示す印がある。

⑫ アッラーは夜をあなたがたの安らぎのために仕えさせ、昼を生活の糧を得るために仕えさせた。また太陽と月を光として仕えさせた。星々もそのご命令によって仕えさせたが、それによってあなたがたは陸と海の闇を導かれたり、時間を知ったりする。それらには理性的な民への、アッラーのお力を示す明証がある。かれらはそこに英知を認めるのだ。

⑬ またかれは、鉱物、動物、植物、作物といった、地上で創造した様々な色のものを、あなたがたに仕えさせた。創造とそれらを仕えさせたことの中には、熟慮する民にとって、アッラーのお力を示す明証がある。かれらはアッラーが全能者であり、恩恵の主であることを知る。

⑭ かれはあなたがたに、海を仕えさせた。あなたがたはそこを移動し、そこで収穫する。それは、あなたがたがそこから魚を捕ってその新鮮で軟らかい肉を食べ、あなたがたとあなたがたの女性たちが身に付ける真珠などの装飾品を取り出すため。また、あなたがたは船が海の水を切って進むのを見る。あなたがたは商売の利益というアッラーの恩恵を求めて、船に乗る。アッラーは、授かった恩恵に対してあなたがたが感謝し、かれのみを崇拜することを望んでいる。

本諸節の功德:

- 全人類が知らないようなものを、いつでもお望みのままに創造するのは、アッラーの偉大さである。
- アッラーは、天の飾り、陸や海の闇における導き、時間とその計算の知識とするため、星を創造した。
- 人生をよい状態にし、よりよい生活への助力となる恵みを授けてくれたアッラーにこそ、賛美と感謝はある。
- アッラーは海をわたしたちに仕えさせたが、それはそこから魚を食したり、真珠やさんごを収穫したり、移動や商売をしたり、その他様々な利益をもたらすためである。

وَأَلْقَى فِي الْأَرْضِ رَوَاسِيَ أَنْ تَمِيدَ بِكُمْ وَأَنْهَارًا وَسُبُلًا
 لَعَلَّكُمْ تَهْتَدُونَ ﴿١٥﴾ وَعَلَّمَتِ بِالنَّجْمِ هُمْ يَهْتَدُونَ
 ﴿١٦﴾ أَفَمَنْ يَخْلُقُ كَمَنْ لَا يَخْلُقُ أَفَلَا تَذَكَّرُونَ ﴿١٧﴾ وَإِنْ
 تَعُدُّوا نِعْمَةَ اللَّهِ لَا تُحْصُوهَا إِنَّ اللَّهَ لَغَفُورٌ رَحِيمٌ ﴿١٨﴾
 وَاللَّهُ يَعْلَمُ مَا تُسْرُونَ وَمَا تُعْلِنُونَ ﴿١٩﴾ وَالَّذِينَ يَدْعُونَ
 مِنْ دُونِ اللَّهِ لَا يَخْلُقُونَ شَيْئًا وَهُمْ يُخْلَقُونَ ﴿٢٠﴾ أَمْوَاتٌ
 غَيْرَ أَحْيَاءٍ وَمَا يَشْعُرُونَ أَيَّانَ يُبْعَثُونَ ﴿٢١﴾ إِلَهُكُمْ إِلَهٌ
 وَاحِدٌ فَالَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ بِالْآخِرَةِ قُلُوبُهُمْ مُنْكَرَةٌ وَهُمْ
 مُسْتَكْبِرُونَ ﴿٢٢﴾ لَأَجْرَمَ آتَى اللَّهُ يَعْلَمُ مَا تُسْرُونَ وَمَا
 يُعْلِنُونَ إِنَّهُ لَا يُحِبُّ الْمُسْتَكْبِرِينَ ﴿٢٣﴾ وَإِذَا قِيلَ لَهُمْ
 مَاذَا أَنْزَلَ رَبُّكُمْ قَالُوا اسْطِيرَالُ الْأَوْلِيَيْنِ ﴿٢٤﴾ لِيَحْمِلُوهُنَّ
 أَوْزَارَهُمْ كَامِلَةً يَوْمَ الْقِيَامَةِ وَمِنْ أَوْزَارِ الَّذِينَ يُضَلُّونَهُمْ
 بِغَيْرِ عِلْمٍ أَلِيسَاءَ مَا يَزُرُونَ ﴿٢٥﴾ قَدْ مَكَرَ الَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ
 فَأَتَى اللَّهُ بُنْيَانَهُمْ مِنَ الْقَوَاعِدِ فَخَرَّ عَلَيْهِمُ السَّقْفُ
 مِنْ فَوْقِهِمْ وَأَتَاهُمُ الْعَذَابُ مِنْ حَيْثُ لَا يَشْعُرُونَ ﴿٢٦﴾

⑮また、かれは大地に山々を置いたが、それはあなたがたが揺れ動くことなく、堅固であるため。また、あなたがたが飲み、家畜や作物に給水するため、そこに河川を流した。あなたがたが歩み、迷うことなく目的地に到着できるよう、道も刻んでくれた。

⑯また、あなたがたのため、大地に明らかな目印を置いてくれた。あなたがたはそれによって、昼間の旅を導かれる。また夜に導かれるようにと、天には星をしつらえた。

⑰このようなものの創造者と、何も創造しないものは、同じか？あなたがたは、全ての創造主の偉大さを熟慮しないのか？何も創造しないものをかれに並べず、かれのみを崇拜しないのか？

⑱人々よ、あなたがたが授かった多くの恩恵を数え上げようとしても、それはその多さのため、不可能である。アッラーは、感謝することへの不注意さを咎めることのない、赦し深いお方。また、罪や感謝不足が原因で恩恵を絶つことのない、慈悲深いお方。

⑲僕たちよ、アッラーはあなたがたの密やかな行いも、あらわな行いもご存知。かれに隠せることはない。かれはそれ(行い)に報われる。

⑳多神教徒たちがアッラー以外に崇拜するものは、僅かなものすらも創造しない。かれらがアッラー以外に崇拜するのは、かれら自身が作ったもの。自分たちの手で作った偶像を、どうして崇拜するのか？

㉑自分たちの手で作って崇拜している偶像は物質であり、生命も知識もない。それらは自分たちの崇拜者と共に、審判の日について復活させられるかも知らない。それらはかれらと共に、地獄に放りこまれる。

㉒あなたがたが真に崇拜すべきものは、共同者のない唯一の崇拜すべき存在、アッラー。報いのための復活を信じない者たちの心は、恐怖の不在のためにアッラーの唯一性を否定する。その心は清算も罰も信じない。かれらは高慢であり、真理を受け入れず、それに従うこともない。

㉓アッラーはかれらのあらわな行いも、密やかな行いも、ご存知。かれに隠せることはない。かれはそれ(行い)に報われる。かれへの崇拜と服従に対して高慢な者を、かれがお好みになることはなく、むしろひどく嫌いになる。

㉔創造主の唯一性を否定し復活を嘘とする者たちに、「アッラーはムハンマドに何を下したのか？」と言われれば、かれらは言う。「何も下してはいない。昔の人々の話や嘘を作って持ってきただけだ。」

㉕この結果、かれらは自分たちの罪を余すことなく背負い、自分たちが無知と模倣のために、イスラームから迷わせた者たちの罪も背負う。かれらが背負う、かれら自身と、かれらに従った者たちの罪は何と醜いことか。

㉖かれら以前の不信仰者たちも使徒たちに策謀した。それでアッラーはかれらの建物を土台から破壊し、屋根をかれらの上に崩し落とした。予想もしないところから、罰が降りかかったのだ。かれらは建物に守られると思っていたが、それによって滅んだのである。

本諸節の功德:

●これらの節には僕に対する、アッラーの様々に偉大な恩恵が示されている。その中には大まかに述べられているものも、詳細に述べられているものもある。アッラーは僕がそれらのために感謝し、思い出し、祈ることを促している。

●人間の性質は不正であり、罪への大胆さである。アッラーによって導かれた者以外、主への義務においては至らなく、その恩恵に対して恩知らずであり、その自覚すら薄い。

●迷わせる者も、迷いの罪においては、迷わされる者と同等である。迷わされることがなければ、その者は自分の考えや他人の忠告によって導かれたからである。

●アッラーは罪深い者たちに、突然厳しい罰を下す。それはじわじわと迫るものとは違う、強烈な恐怖を伴う。

ثُمَّ يَوْمَ الْقِيَامَةِ يُخْرِجُهُمْ وَيَقُولُ أَيَنْ شُرَكَائِيَ الَّذِينَ كُنْتُمْ تَشْفُقُونَ فِيهِمْ قَالَ الَّذِينَ أُوتُوا الْعِلْمَ إِنَّ الْآخِرَىٰ أَيْسَرُ وَالسَّوْءَ عَلَى الْكَافِرِينَ ﴿٣٧﴾ الَّذِينَ تَتَوَقَّعُهُمُ الْمَلَائِكَةُ ظَالِمِي أَنْفُسِهِمْ فَأَلْقَوْا السَّلَامَ مَا كُنَّا نَعْمَلُ مِنْ سُوءٍ بَلَىٰ إِنَّ اللَّهَ عَلِيمٌ بِمَا كُنْتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٣٨﴾ فَادْخُلُوا أَبْوَابَ جَهَنَّمَ خَالِدِينَ فِيهَا فَلَئْسَ مَثْوًى لِّلْمُتَكَبِّرِينَ ﴿٣٩﴾ وَقِيلَ لِلَّذِينَ اتَّقَوْا مَاذَا أَنْزَلَ رَبُّكُمْ قَالُوا خَيْرًا لِّلَّذِينَ أَحْسَنُوا فِي هَذِهِ الدُّنْيَا حَسَنَةٌ وَلَدَارُ الْآخِرَةِ خَيْرٌ وَلَنِعْمَ دَارُ الْمُتَّقِينَ ﴿٤٠﴾ جَنَّاتٌ عَدْنٍ يَدْخُلُونَهَا يُجْرَىٰ مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ لَّهُمْ فِيهَا مَا يَشَاءُونَ كَذَلِكَ يَجْزِي اللَّهُ الْمُتَّقِينَ ﴿٤١﴾ الَّذِينَ تَتَوَقَّعُهُمُ الْمَلَائِكَةُ طَيِّبِينَ يَقُولُونَ سَلَامٌ عَلَيْكُمْ أَذْخَلُوا الْجَنَّةَ يَمَا كُنْتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٤٢﴾ هَلْ يَنْظُرُونَ إِلَّا أَنْ تَأْتِيَهُمُ الْمَلَائِكَةُ أَوْ يَأْتِيَ أَمْرٌ رَبِّكَ كَذَلِكَ فَعَلَ الَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ وَمَا ظَلَمَهُمُ اللَّهُ وَلَكِنْ كَانُوا أَنْفُسَهُمْ يَظْلِمُونَ ﴿٤٣﴾ فَأَصَابَهُمْ سَيِّئَاتٌ مَّا عَمِلُوا وَحَاقَ بِهِمْ مَا كَانُوا بِهِ يَسْتَهْزِئُونَ ﴿٤٤﴾

سورة التعل
٣٧

②⑦それから審判の日、アッラーはかれらを罰で辱しめ、言う。「あなたがたが崇拜行為において、われに並べていた者たちはどこか？あなたがたはかれらが原因で、わが預言者たちや信徒たちに敵対していた。」学のある者らは言う。「不信仰者らには審判の日、屈辱と罰がある。」

②⑧死の天使とその介助役の天使たちが、アッラーへの不信仰によって自らに不正を働いていた者たちの魂を引き抜くと、かれらは降伏して死を受け入れる。かれらはそれが役に立つと考え、不信仰と罪を否定するが、こう言われる。「嘘つきめ。あなたがたは不信仰者で、罪を犯していた。アッラーはあなたがたの現世の行いを知っている。何もかれに隠すことはできない。かれはあなたがたの行いで、あなたがたに報いる。」

②⑨かれらには言われる。「あなたがたの行いにより、地獄の門に入れ。あなたがたはそこに永遠に留まる。アッラーの信仰とかれのみの崇拜に対して高慢だった者たちの居場所は、何と忌まわしいことか。」

③⑩そのご命令と禁止事項への服従によって主を畏れていた者たちには、こう言われる。「主はあなたがたの預言者ムハンマドに、何を下したのか？」かれらは答える。「アッラーはかれに、偉大な善いものを下した。この現世においてアッラーの崇拜をよく行い、その被造物とよく付き合った者たちには、勝利や豊かな糧などのよい褒美がある。かれが来世でかれらに用意してくれた褒美は、現世で先に頂くものよりもよい。そのご命令と禁止事項を守ることによって主を畏れていた者たちの来世での居場所は、何と素晴らしいことか。」

③⑪かれらが安住の場として入る天国は、城砦と木々の下から河川が流れている。かれらにはそこで、飲食物やその他、望むものが全て手に入る。ムハンマドの共同体の敬虔な者たちが授かるこのような褒美を、それ以前の敬虔な者たちも授かるのだ。

③⑫死の天使とその介助役の天使たちは、不信仰ではなく心が清浄な状態にある者たちの魂を引き抜くと、こう言う。「あなたがたはあらゆる悪から安全である。現世での正しい信仰と善行により、天国に入るがよい。」

③⑬かれら嘘つきの多神教徒たちは、死の天使とその介助役の天使たちが訪れ、かれらの顔や背中を叩き、かれらの魂を引き抜く時を待っているだけなのか？または、かれらを一掃する現世での罰という、アッラーのご命令が到来する時を？マッカの多神教徒たちがしているこのようなことを、過去の多神教徒たちもしていたのであり、アッラーによって滅ぼされたのだ。アッラーがかれらを滅ぼしたのは不正ではない。しかしかれらが、アッラーに対する不信仰によって破滅を招くことで、自分自身に不正を働いていたのだ。

③⑭こうしてかれらには、行いの報いとして罰が下った。戒めを受けてもかれらが嘲笑していた罰によって、包囲されたのである。

本諸節の功德:

- 宗教の知識がある者の徳。かれらは現世でも審判の日でも、真理によって語る。かれらの言葉はアッラーのもともども、被造物のもともども、重みがある。
- 天国の民には望むもの全てが与えられるという、アッラーの恵み深さ。アッラーは、思いもつかないような安寧についてまで言及している。
- 行いこそは天国に入り、地獄から救われる原因。それは信仰者の力などではなく、アッラーのご慈悲と恩恵によるものである。
- 「わたしたちは、あなたがたの行いを知っていた」とは言わず、知識をアッラーに結びつけるのは、天使たちのアッラーに対する礼儀。天使たちの知識は全て、アッラーから与えられたものである。

وَقَالَ الَّذِينَ أَشْرَكُوا لَوْ شَاءَ اللَّهُ مَا عَبَدْنَا مِنْ دُونِهِ مِنْ شَيْءٍ نَحْنُ وَلَا آبَاؤُنَا وَلَا حَرَمْنَا مِنْ دُونِهِ مِنْ شَيْءٍ كَذَلِكَ فَعَلَ الَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ فَهَلْ عَلَى الرَّسُولِ إِلَّا الْبَلْغُ الْمُبِينُ ﴿٣٥﴾

وَلَقَدْ بَعَثْنَا فِي كُلِّ أُمَّةٍ رَسُولًا أَنْ اعْبُدُوا اللَّهَ وَاجْتَنِبُوا الطَّاغُوتَ فَمِنْهُمْ مَنْ هَدَى اللَّهُ وَمِنْهُمْ مَنْ حَقَّتْ عَلَيْهِ الضَّلَالَةُ فسيروا فِي الْأَرْضِ فَانظُرُوا كَيْفَ كَانَ عَاقِبَةُ الْمُكْذِبِينَ ﴿٣٦﴾

إِنْ تَحْرِصْ عَلَى هُدَاهُمْ فَإِنَّ اللَّهَ لَا يَهْدِي مَنْ يُضِلُّ وَمَا لَهُمْ مِنْ نَاصِرِينَ ﴿٣٧﴾

وَأَقْسَمُوا بِاللَّهِ جَهْدَ أَيْمَانِهِمْ لَا يَبْعَثُ اللَّهُ مِنْ بَعْدِ بَلَى وَعَدَّ اعْلِيَهُ حَقًّا وَلَكِنَّ أَكْثَر النَّاسِ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٣٨﴾

يُبَيِّنْ لَهُمُ الَّذِي يُخْتَلَفُونَ فِيهِ وَلِيَعْلَمَ الَّذِينَ كَفَرُوا أَتَهُمُ كَانُوا كَذِبِينَ ﴿٣٩﴾

إِنَّمَا قَوْلُنَا لِشَيْءٍ إِذَا أَرَدْنَاهُ أَنْ نَقُولَ لَهُ وَكُنْ فَيَكُونُ ﴿٤٠﴾

وَالَّذِينَ هَاجَرُوا فِي اللَّهِ مِنْ بَعْدِ مَا ظَلَمُوا لَنَنبُوَنَّهُمْ فِي الدُّنْيَا حَسَنَةً وَلَآجْرٌ لَآخِرَةٌ أَكْبَرُ لَوْ كَانُوا يَعْلَمُونَ ﴿٤١﴾

الَّذِينَ صَبَرُوا وَعَلَى رَبِّهِمْ يَتَوَكَّلُونَ ﴿٤٢﴾

③⑤ アッラーに何か他のものを並べて崇拝する者たちは、言う。「もしわたしたちがアッラーに何も並べることなく崇拝することを、アッラーがお望みになっていたら、わたしたちも先祖もアッラー以外のものを崇拝してはいなかっただろう。またかれが、わたしたちが何も禁じないことを望んだなら、わたしたちは何も禁じなかっただろう。」過去の不信仰者たちは、このような根拠のない議論を言っていた。使徒たちは伝達を命じられたことを明白に伝えるだけであり、実際にそうした。アッラーから意思と選択を授かり、使徒たちも遣わされた後、不信仰者たちが運命を理由に言い訳することは出来ない。

③⑥ われらは過去の全ての社会に使徒を遣わし、民にアッラーのみを崇拝し、偶像や悪魔などアッラー以外のものの崇拝を放棄するよう、命じさせた。かれらの中には信仰へと導かれ、使徒に従った者もいたが、アッラーを否定し使徒に逆らったことで迷い去った者もいた。嘘よばわりしていた者たちの破滅的な結末を自分たちの目で見ると、地上を旅するがよい。

③⑦ 使徒よ、かれらを導くために努力し、そのための要因を満たしても、アッラーはご自身が迷わせた者を導くことはない。かれらにはアッラー以外、かれらを罰から守ってくれる援助者などいない。

③⑧ 復活を嘘とするかれらは、やたらと誓ってこう言う。「死者をアッラーが蘇らせることはない。」かれらには何の根拠もないのに。いや、アッラーは全ての死者を蘇らせる。これは真の約束。しかし多くの人々は、アッラーが死者を蘇らせることを知らず、復活を否定する。

③⑨ アッラーは審判の日、かれら全員を蘇らせる。それはアッラーの唯一性、復活、預言者性といったことでかれらが意見を異ならせていた事実を明らかにし、不信仰者によるアッラーに共同者があるとの主張や、復活の否定といったことが嘘であることを分らせるためなのである。

④① われらが死者の復活を望めば、それを妨げるものはない。われらが何かを望めば、それに対して「あれ」と言うだけで絶対に実現する。

④② 不信仰者たちから迫害を受けた後、アッラーのお喜びを求めて、不信仰の地からイスラームの地へと、故郷や家族や財産を後にして移住した者たち。われらはかれらを現世において、威光高き住まいに住ませる。そして来世の褒美は天国であり、もっと偉大である。移住者の褒美を知ったのなら、移住を渋っていた者たちは、渋ることなどなかったのだ。

④③ かれらアッラーの道における移住者たちは、民からの迫害、家族と故郷との別れを耐え、アッラーへの服従に忍耐した。かれらは主のみ全てを任せていたために、アッラーから偉大な褒美を頂いたのだ。

本諸節の功德:

- 嘘呼ばわりし、迷いの中にあつた者たちに降りかかった破滅と罰によって訓戒を受けるのが、理性的な者である。
- 復活やその他のことに関して、人々が意見を異ならせていたことの真実を明らかにするのが、復活に含まれた英知である。
- 忍耐と、アッラーに委ねることの徳。忍耐は自我の抑制のため、アッラーに委ねるのは至高のアッラーへの信頼と依存を高めるためである。
- 故郷や財産を放棄し、迫害に耐え、主に委ねて移住する者の褒美は、よりよい住みか、満足した生活、豊かなよい糧、敵への勝利、国と民の支配である。

وَمَا أَرْسَلْنَا مِنْ قَبْلِكَ إِلَّا رَجَالًا نُوحِي إِلَيْهِمْ فَسَلُوا أَهْلَ
 الذِّكْرِ إِنْ كُنْتُمْ لَا تَعْلَمُونَ ﴿٤٣﴾ يَا بَنِي آدَمَ وَالزُّبُرُ وَأَنْزَلْنَا إِلَيْكَ
 الذِّكْرَ لِتُبَيِّنَ لِلنَّاسِ مَا نُزِّلَ إِلَيْهِمْ وَلَعَلَّهُمْ يَتَفَكَّرُونَ ﴿٤٤﴾
 أَفَأَمِنَ الَّذِينَ مَكَرُوا السَّيِّئَاتِ أَنْ يَخْسِفَ اللَّهُ بِهِمُ الْأَرْضَ
 أَوْ يَأْتِيَهُمُ الْعَذَابُ مِنْ حَيْثُ لَا يَشْعُرُونَ ﴿٤٥﴾ أَوْ يَأْخُذَهُمْ
 فِي تَقْلِبِهِمْ فَفَاحِمًا بِمُعْجِزِينَ ﴿٤٦﴾ أَوْ يَأْخُذَهُمْ عَلَى تَخَوُّفٍ فَإِنَّ
 رَبَّكُمْ لَرَءُوفٌ رَحِيمٌ ﴿٤٧﴾ أَوْ لَوِيذًا إِلَىٰ مَا خَلَقَ اللَّهُ مِنْ شَيْءٍ
 يَتَفَقَّهُوْا ظِلْمًا لِلَّهِ وَعَنِ الْيَمِينِ وَالشَّمَالِ سُجَّدًا لِلَّهِ وَهُمْ دَاخِرُونَ
 ﴿٤٨﴾ وَاللَّهُ يَسْجُدُ مَا فِي السَّمَوَاتِ وَمَا فِي الْأَرْضِ مِنْ دَابَّةٍ
 وَالْمَلَائِكَةِ وَهُمْ لَا يُسْتَكْبِرُونَ ﴿٤٩﴾ يَخَافُونَ رَبَّهُمْ مِنْ فَوْقِهِمْ
 وَيَفْعَلُونَ مَا يُؤْمَرُونَ ﴿٥٠﴾ * وَقَالَ اللَّهُ لَا تَتَّخِذُوا إِلَهَيْنِ
 اثْنَيْنِ إِنَّمَا هُوَ إِلَهٌُ وَاحِدٌ فَإِنِّي فَارْهَبُونَ ﴿٥١﴾ وَلَهُ مَا فِي السَّمَوَاتِ
 وَالْأَرْضِ وَلَهُ الدِّينُ وَاصْبَاءًا فَغَيْرِ اللَّهِ تَتَّقُونَ ﴿٥٢﴾ وَمَا يَكُومُنَّ
 نَعْمَةً مِنْ اللَّهِ ثُمَّ إِذَا مَسَّهُمُ الضَّرُّ فَإِلَيْهِ يَجْعَرُونَ ﴿٥٣﴾ ثُمَّ إِذَا
 كُشِفَ الضَّرُّ عَنْكُمْ إِذَا فَرِيقٌ مِنْكُمْ بِرَبِّهِمْ يُشْرِكُونَ ﴿٥٤﴾

سورة النحل
 الجزء الرابع عشر

43 使徒よ、われらがあなた以前に遣わしたのは皆、われらが啓示を受けた人間の男性である。使徒が天使ではないのは、われらの慣行である。それを否定するなら、以前の啓典の民に聞いてみるがよい。かれらは、使徒が天使ではなく人間だったと言うだろう。もしあなたがたが、かれらが人間であったことを知っていれば。

44 われらはかれら使徒を、明白な根拠と啓典と共に、人間として遣わした。そして使徒よ、あなたにはクルアーンを下したが、それはあなたが人々に説明すべきものを説明するため。恐らくかれらは思考を働かせ、そこから訓戒を受けるだろう。

45 アッラーの道から阻もうと策略を練る者たちは、アッラーがかれらをカールーンのように地面に沈めたり、または予想もしないところから罰が訪れることから安心しているのか？

46 または旅行中や、糧を求めて往来している時に、罰が降りかからないか？かれらはそれを回避も防止も出来ない。

47 それとも、アッラーのことを恐れている最中に、かれの罰が襲いかからないと安心しているのか？アッラーはかれらがどんな状況にあらうと、罰することが出来る。主は僕たちが悔悟することを望んで罰を急がれない、親切で慈悲深いお方。

48 かれら嘘呼ばわりしている者たちは、被造物を熟慮して観察しないのか？それらの影は昼間は太陽の動き、夜は月の動きに従って、右に左に揺れ動く。それらは主に従い、実際に身を低めてサジダしているのだ。

49 天にある全て、地にうごめく全てのものは、アッラーのみサジダする。また天使たちもかれのみにサジダするのであり、アッラーへの崇拜と服従において高慢になることはない。

50 かれらはその常なる崇拜と服従の状態にも関わらず、その本質と権威においてかれらの高きにいっしやる主を恐れる。かれらはかれが命じる服従行為を行う。

51 アッラーは全ての僕たちに言う。「崇拜するものを二つにするな。真に崇拜に値するのは、共同者がいないお方、お一人だけ。われのみを恐れ、われ以外を恐れてはならない。」

52 天地の創造、主権、采配はかれにこそ属する。かれにこそ、服従と真摯さは確固として向けられなければならない。あなたがたはアッラー以外のものを恐れるのか？いや、かれだけを恐れよ。

53 人々よ、あなたがたのあらゆる宗教的・現世的恩恵は、他ならぬアッラーからのもの。あなたがたは試練や病気や貧困などが降りかかれれば、それを取り除いてもらうため、アッラーのみに祈ってすがりつく。しかし恩恵を受け、災難を取り払ってくれるお方だけを、崇拜しなければならない。

54 かれが祈りに応じ、害悪を取り除いてくれると、あなたがたの一派は主に別のものを並べて崇拜する。これは何たる有様か？

本諸節の功德:

- 罪深い者は、主に恥じ入るべきである。アッラーの恩恵を常に授かっていながら、それに悪事で応えているのだから。
- 不信仰者、嘘よばわりする者、諸々の罪を犯す者は、不注意な状態のまま罰を下されないよう、アッラーを恐れるべきである。
- 恩恵は糧や無事や健康などの具体的なものであれ、平穏さや地位などの抽象的なものであれ、全てアッラーからのものである。
- 人間が厳しい災難の中にある時、その害悪を取り除いてくれる拠り所として見出すのは、アッラーのみである。かれ以外に問題を除去してくれる存在がないことを知っている為に、かれに懸命に祈るのである。

لِيَكْفُرُوا بِمَا آتَيْنَاهُمْ فَتَمَتَّعُوا فَسَوْفَ تَعْلَمُونَ ﴿٥٥﴾ وَيَجْعَلُونَ
 لِمَا لَا يَعْلَمُونَ نَصِيبًا مِمَّا رَزَقْنَاهُمْ تَاللَّهِ لَتَسْعُنَّ عَمَّا كُنْتُمْ
 تَقْتَرُونَ ﴿٥٦﴾ وَيَجْعَلُونَ لِلَّهِ الْبَنَاتِ سُبْحَانَهُ وَلَهُمْ مَا يَشْتَهُونَ
 ﴿٥٧﴾ وَإِذَا بَشَّرْنَا أَحَدَهُمْ بِالْأُنثَىٰ ظَلَّ وَجْهَهُ وَمُسْوَدًّا وَهُوَ كَظِيمٌ ﴿٥٨﴾
 يَتَوَرَّى مِنَ الْقَوْمِ مِنْ سُوءِ مَا بُشِّرَ بِهِ أَيُمْسِكُهُ عَلَىٰ هُونٍ
 أَمْ يَدُسُّهُ فِي التُّرَابِ أَلَا سَاءَ مَا يَحْكُمُونَ ﴿٥٩﴾ لِلَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ
 بِالْآخِرَةِ مَثَلُ السَّوْءِ وَلِلَّهِ الْأَعْلَىٰ وَهُوَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ
 ﴿٦٠﴾ وَلَوْ يُؤَاخِذُ اللَّهُ النَّاسَ بِظُلْمِهِمْ مَا تَرَكَ عَلَيْهَا مِنْ دَابَّةٍ
 وَلَكِنْ يُؤَخِّرُهُمْ إِلَىٰ أَجَلٍ مُّسَمًّى ۖ إِذَا جَاءَ أَجَلُهُمْ لَا يَسْتَجِرُّونَ
 سَاعَةً وَلَا يَسْتَقْدِمُونَ ﴿٦١﴾ وَيَجْعَلُونَ لِلَّهِ مَا يَكْرَهُونَ وَتَصِفُ
 أَلْسِنَتُهُمُ الْكَذِبَ أَنَّ لَهُمُ الْحُسْنَىٰ لَاجِرًا ۗ إِنَّ لَهُمُ النَّارَ
 وَأَنَّهُمْ مُّفْرَطُونَ ﴿٦٢﴾ تَاللَّهِ لَقَدْ آرَسْنَا إِلَىٰ أُمَمٍ مِنْ قَبْلِكَ
 فَرِيقًا لَهُمُ الشَّيْطَانُ أَعْمَلَهُمْ فَهَوُوا إِلَهُهُمْ الْيَوْمَ وَلَهُمْ
 عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿٦٣﴾ وَمَا أَنْزَلْنَا عَلَيْكَ الْكِتَابَ إِلَّا لِتُبَيِّنَ لَهُمُ
 الَّذِي اخْتَلَفُوا فِيهِ وَهُدًى وَرَحْمَةً لِّقَوْمٍ يُؤْمِنُونَ ﴿٦٤﴾

55) 多神の考えが、自分たちへのアッラーの恩恵を否定させる。害悪の除去もその一つである。かれらにはこう言われる。「早かれ遅かれ、アッラーの罰がやって来るが、それまで安寧な状態を楽しんでいよ。」

56) 多神教徒たちは、単なる物体であり、害することも益することも無い無知な偶像にお近づきを求め、**われら**が授けた財産の一部を捧げる。アッラーに誓って、多神教徒たちよ、あなたがたは審判の日、それらの偶像が神であり、あなたがたの財産の一部に対して権利があるという主張について、問われることになる。

57) 多神教徒たちはアッラーに娘があり、それが天使たちだと信じる。かれらは自分たちには好まないものを、**かれ**に対して選んでいる。**かれ**は、かれらが信じているようなことから無縁で、崇高なお方。また、かれらは自分たちには、かれらが好む息子を結びつける。このような大きな罪があらうか？

58) かれら多神教徒たちは、女兒が生まれたとの知らせを聞けば、忌々しく思って顔が黒ずみ、心は悲しみで一杯になる。かれらは自分たちが好まないものを、アッラーに選んでいるのだ。

59) 女兒が生まれた者はその悪い知らせのために身を隠し、こう自問する。屈辱をこらえて娘を手許に置くか、それとも砂に埋めてしまおうか、と。自分たちに嫌うことを主に対して決め付けるとは、多神教徒たちの決定は何と醜いことか。

60) 来世を信じない不信仰者たちには、男児への依拠、無知、不信仰といった悪い性質がある。そしてアッラーにこそ、偉大さ、完全さ、豊かさ、知といった、崇高な性質がある。**かれ**は誰にも制圧されない偉大なお方であり、創造と采配と法規定において英知あふれるお方。

61) その不正と不信仰のため、アッラーが人々を罰するとすれば、人間であろうと動物であろうと、地上に何も残さなかつただろう。しかし**かれ**は、**かれ**が知っている一定の時まで、かれらを猶予する。その時が来たら、かれらは一瞬すらも遅らせたり、早めたりすることは出来ない。

62) かれらはアッラーに、自分たちが嫌っている女兒を結び付けている。そしてもし本当に蘇らされるのなら、かれらにはアッラーの御許で素晴らしい地位があると、嘘を語っている。実際のところ、かれらには地獄がある。そこに永遠に放置され、出てくることもない。

63) アッラーにかけて、使徒よ。**われら**はあなた以前、使徒たちをその民に遣わした。しかし悪魔がかれらに、多神教や不信仰や罪などの悪行を美しく見せたのだ。かれ(悪魔)は審判の日の偽の救い手だが、かれらにはかれに救いを求めさせるがよい。かれらには審判の日に、痛ましい罰がある。

64) 使徒よ、**われら**があなたにクルアーンを下したのは、アッラーの唯一性、復活、法といったことにおける議論に関し、全ての人々に説明するため。そしてクルアーンがアッラーとその使徒たち、クルアーンがもたらしたものを信じる者たちにとっての導きと慈悲となるためである。かれらこそは、真理から利益を得る者たちなのだ。

本諸節の功德:

- アッラーには娘があり、自分たちには男児があるべきとの主張は、多神教徒たちの無知を示している。娘をひどく毛嫌いな者は、その鬱陶しさから顔色が変わり、強い悲しみと屈辱感と羞恥心のため、人々から身を隠すほどだった。
- 不信仰者に信仰と悔悟の機会を与えるため、罰を急がずに猶予を与えるのは、アッラーの慣行である。
- 預言者の最大の任務は、クルアーンの教えの説明であり、宗教や法において諸派間で議論となっていることを説明し、それによって彼らに弁解の余地を残さないようにすることである。

وَاللَّهُ أَنْزَلَ مِنَ السَّمَاءِ مَاءً فَأَحْيَاهُ الْأَرْضَ بَعْدَ مَوْتِهَا إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَةً لِقَوْمٍ يَسْمَعُونَ ﴿٦٥﴾ وَإِنَّ لَكُمْ فِي الْأَنْعَامِ لَعِبْرَةً لِمُسِّقِكُمْ مِمَّا فِي بُطُونِهِ مِنْ بَيْنِ فَرْثٍ وَدَمٍ لَبِنًا خَالِصًا سَائِغًا لِلشَّيْبِيبِ ﴿٦٦﴾ وَمِنْ ثَمَرَاتِ النَّخِيلِ وَالْأَعْنَابِ تَتَّخِذُونَ مِنْهُ سَكَرًا وَرِزْقًا حَسَنًا إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَةً لِقَوْمٍ يَعْقِلُونَ ﴿٦٧﴾ وَأَوْحَى رَبُّكَ إِلَى النَّحْلِ أَنْ اتَّخِذِي مِنَ الْجِبَالِ بُيُوتًا وَمِنَ الشَّجَرِ وَمِمَّا يَعْرِشُونَ ﴿٦٨﴾ ثُمَّ كُلِي مِنْ كُلِّ الثَّمَرَاتِ فَاسْلُكِي سُبُلَ رَبِّكِ ذُلَالًا يَخْرُجُ مِنْ بُطُونِهَا شَرَابٌ مُخْتَلِفٌ أَلْوَانُهُ فِيهِ شِفَاءٌ لِلنَّاسِ إِنَّ فِي ذَلِكَ لَآيَةً لِقَوْمٍ يَتَفَكَّرُونَ ﴿٦٩﴾ وَاللَّهُ خَلَقَكُمْ ثُمَّ يَتَوَفَّاكُمْ وَمِنْكُمْ مَنْ يُرَدُّ إِلَى أَرْدَلِ الْعُمرِ لِكَيْ لَا يَعْلَمَ بَعْدَ عِلْمٍ شَيْئًا إِنَّ اللَّهَ عَلِيمٌ قَدِيرٌ ﴿٧٠﴾ وَاللَّهُ فَضَّلَ بَعْضَكُمْ عَلَى بَعْضٍ فِي الرِّزْقِ فَمَا الَّذِينَ فُضِّلُوا بِرَادِي رِزْقِهِمْ عَلَى مَا مَلَكَتْ أَيْمَانُهُمْ فَهُمْ فِيهِ سَوَاءٌ أَفَبِعَمَةٍ أَلَّهَ يَبْجَحِدُونَ ﴿٧١﴾ وَاللَّهُ جَعَلَ لَكُمْ لِكُفْرَانِكُمْ أَزْوَاجًا وَجَعَلَ لَكُمْ مِنْ أَزْوَاجِكُمْ بَنِينَ وَحَفَدَةً وَرِزْقَكُمْ مِنْ أَلْطَيْبَاتِ أَفْيَا الْبَطْلِ يُؤْمِنُونَ وَبِنِعْمَتِ اللَّهِ هُمْ يَكْفُرُونَ ﴿٧٢﴾

65 アッラーは天から雨を降らせ、それで植物を生育させ、乾き切ってしまった大地を息吹かせる。天から雨を降らせ、大地からは植物を芽吹かせることには、アッラーの言葉を聞き、熟慮する民にとっての、**かれ**の明白な力の印がある。

66 人々よ、あなたがたにはラクダと牛と羊の中に、教訓がある。**われら**はその腹部の排泄物と、身体の血液の間から出てくる乳を乳房から出し、あなたがたに飲ませる。清らかで美味な、飲む者にとって良いものとして出てくるのだ。

67 またあなたがたには、**われら**が与えるナツメヤシの木の実とブドウの果実の中に、教訓がある。あなたがたはそれから、理性を失わせる酒を造るが、それは良くないもの。ナツメヤシの実、干しブドウ、酢、糖蜜など有益なものは、よい糧である。これらの中には理性的な者たちにとっての、アッラーのお力と恩恵を示す印があり、かれらこそが教訓を受けるのだ。

68 使徒よ、主は蜜蜂に「山に巣を作れ。木に巣を作れ。そして人間が建て、屋根としたものの中に」と指南し、導いた。

69 「それから好きな果実から食べ、主が導いてくれた道に従順に歩め。」それらの蜜蜂の腹部からは白や黄色など、様々な色の蜜が出て来る。その中には人間の病気への癒しがある。蜜蜂への指南と、その腹部から出る蜜の中には、考える民にとって、アッラーのお力と被造物における采配の印がある。かれらこそが教訓を受けるのだ。

70 アッラーはあなたがたを前例のない形で創造し、その時期が来たら死を与える。あなたがたの内には老齢という最悪の年齢に達し、今まで分かっていたことが分からなくなる者もある。アッラーは全知で、**かれ**に隠せる行いなどはない。また不可能なことがない、全能のお方。

71 アッラーはあなたがたに糧において差をつけ、あなたがたを豊かな者、貧しい者、支配者、被支配者とした。アッラーが糧を余分に授けた者たちは、授かった物を財産の同等な共同者とするため、自分たちの奴隷に戻したりはしない。かれらは自分たちの奴隷が同等な共同者になることを喜ばないというのに、アッラーがどうしてその僕たちからの共同者に満足しようか？これよりもひどい不正と、アッラーの恩恵への無視はあろうか？

72 人々よ、アッラーはあなたがた自身の内からあなたがたに妻を創った。そして妻から子供と孫を創り、肉や種子や果実といったよい食べ物を授けてくれた。それなのに偶像などの虚妄を信じ、数え切れないたくさんのお力と恩恵に恩知らずになって、**かれ**のみを信じることなく感謝しないのか？

本諸節の功德:

- アッラーはナツメヤシやブドウの果実を僕に有益なものとした。僕はそれを、生のままや熟したりさせて、あるいは貯蔵して、食べて、飲むのである。
- 小さな蜜蜂とその腹から出る、土壌や草花次第で様々な色に異なる美味しい蜜は、至高のアッラーの僕たちに対する完璧な待遇と優しさの証である。またそれは、かれ以外の存在が崇められ、祈りの対象とされてはならないことの証でもある。

وَيَعْبُدُونَ مِن دُونِ اللَّهِ مَا لَا يَمْلِكُ لَهُمْ رِزْقًا مِّنَ السَّمٰوٰتِ
وَالْاَرْضِ شَيْئًا وَلَا يَسْتَطِيعُونَ ﴿٧٣﴾ فَلَا تَضُرُّوْا لِلّٰهِ الْاَمْثَالَ
۞ اِنَّ اللّٰهَ يَعْلَمُ غَيْبَكُمْ وَاَنْتُمْ لَا تَعْلَمُوْنَ ﴿٧٤﴾ * ضَرَبَ اللّٰهُ مَثَلًا عَبْدًا
مَّمْلُوْكًا لَا يَقْدِرُ عَلٰى شَيْءٍ وَّمِن رِّزْقِنَا مَنَارًا رَّقًا حَسَنًا
فَهُوَ يَنْفِقُ مِنْهُ سِرًّا وَجَهْرًا هَلْ يَسْتَوِيَنَّ الْحَمْدُ لِلّٰهِ
بَلْ اَكْثَرُهُمْ لَا يَعْلَمُوْنَ ﴿٧٥﴾ وَضَرَبَ اللّٰهُ مَثَلًا رَجُلَيْنِ
اَحَدُهُمَا اَبْكُمُ لَا يَقْدِرُ عَلٰى شَيْءٍ وَّهُوَ كَلٌّ عَلٰى مَوْلَاهُ
اَيْنَمَا يُوْجِهُهُ لآيَاتٍ يَخِيْرُ هَلْ يَسْتَوِي هُوَ وَمَنْ يَأْمُرُ
بِالْعَدْلِ وَّهُوَ عَلٰى صِرَاطٍ مُّسْتَقِيْمٍ ﴿٧٦﴾ وَاللّٰهُ عَزِيْزٌ
الْمَسْمُوْمِ وَالْاَرْضِ وَمَا اَمْرُ السَّاعَةِ اِلَّا كَلَمْحِ
الْبَصَرِ اَوْ هُوَ اَقْرَبُ اِنَّ اللّٰهَ عَلٰى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيْرٌ ﴿٧٧﴾
وَاللّٰهُ اَخْرَجَكُمْ مِّنْ بُطُوْنِ اُمَّهَاتِكُمْ لَا تَعْلَمُوْنَ شَيْئًا
وَجَعَلَ لَكُمْ السَّمْعَ وَالْاَبْصَارَ وَالْاَفْئِدَةَ لَعَلَّكُمْ
تَشْكُرُوْنَ ﴿٧٨﴾ اَلَمْ يَرْوِاْ اِلَى الطَّيْرِ مَسْحَرَاتٍ فِيْ جَوِّ السَّمَآءِ
مَا يُمْسِكُهُنَّ اِلَّا اللّٰهُ اِنَّ فِيْ ذٰلِكَ لآيَاتٍ لِّقَوْمٍ يُّؤْمِنُوْنَ ﴿٧٩﴾

73) かれら多神教徒らは、アッラーをそっちのけにして偶像を拝している。それらには天からも地からも、かれらに糧を授ける力はなく、そうすることも出来ないのに。それらは生命も知識も無い物質なのだ。

74) 人々よ、益することも害することも無いこれら偶像を、アッラーに比するものとしてはならない。崇拝において並べるほど、アッラーに比したものは無いのだ。アッラーは崇高さと完全さという属性がご自身に備わっていることをご存知だが、あなたがたはそれを知らない。そのためにあなたがたは多神を犯し、偶像をかれに相似させるのだ。

75) 多神教徒に対する反論として、アッラーはたとえを挙げる。自由に振る舞うことも出来ず、費やすものもない奴隷の男と、合法的な財産を授けられ、それを公(おおよけ)にでもひそかにでも使うことが出来る自由な男がいる。この二人は同等ではない。ではなぜ、その王国においてお望みのままに行うことが出来る所有者アッラーと、不能な偶像を並べるのか? 称賛に値するアッラーに讃えあれ。多くの多神教徒は神性と、崇拝すべき対象としてのアッラーの唯一性を知らない。

76) また、かれらに対する反論としてアッラーは、別の二人の男のたとえを挙げる。一方は耳も聞こえず口も利けず、理解もなく、自分のことも他人のことも益することが出来ない。かれは世話をしてくれる人にとって重荷であり、どこに送られてもよいものをもたらさず、目的も果たせない。この者と、耳も聞こえ、口も利ける、他人の役に立つ者は同等か? しかもその者は正義を命じ、疑念も歪曲もない正しい道の上にあるのだ。それなのに多神教徒たちよ、なぜあなたがたは崇高さと完全さという属性のアッラーと、聞きも話しもせず、益ももたらさず害を追いやることも無い偶像を等しいとするのか?

77) アッラーにのみ、天と地における見えないものの知識

は属する。かれだけにその知識は属し、被造物は知らないのだ。審判の日もまたそのような知識の一つであり、その訪れの速さは瞬き一つか、またはそれ以下である。アッラーは全てがお出来であり、不可能なことなどない。何かをお望みになって「あれ」と言いさえすれば、それはそうなるのだ。

78) 人々よ、アッラーは妊娠期間の終了後、あなたがたを母親の胎内から、何も知らない子供としてお出しになる。あなたがたが聞けるように聴覚を、見えるように視覚を、考えられるように心を授けたが、それはあなたがたがかれの恩恵に感謝するようにするためである。

79) 多神教徒らは、空を飛ぶために仕えさせられた鳥を見ないのか? その翼と空気の軽さを授け、翼のたたみ方と広げ方を教えたのはアッラーであり、鳥が空から落下しないよう支えるのも全能のアッラーである。鳥を仕えさせ、落下から支えることには、アッラーを信じる民への印がある。かれらこそが、印を役立てる者なのだ。

本諸節の功德:

●アッラーには、僕の間を糧を分配することにおける、大きな英知がある。豊かな者、貧しい者、平均的な者などがあるのは世界が相互補完し、共生し、互いに仕えるためである。

●二つのたとえにより、多神教徒の迷いと偶像崇拝の虚妄が証明される。崇拝されるべき神は物事の所有者・采配者であり、自らを崇拝する者を益し、善と正義の命令が可能なる者でなければならない。

●人々を母親の胎内から何も知らない状態で創り、その後知識を得る手段を授けることは、アッラーの恩恵であり、その御力を示す印である。その手段とは聴覚、視覚、心であり、かれらはそれらにより知識や認識を得る。

وَاللّٰهُ جَعَلَ لَكُمْ مِّنْ بُيُوتِكُمْ سَكَنًا وَجَعَلَ لَكُمْ مِنْ جُلُودِ
الْاَنْعَامِ بُيُوتًا تَسْتَخِفُّونَهَا يَوْمَ ظَعْنِكُمْ وَيَوْمَ اِقَامَتِكُمْ
وَمِنْ اَصْوَابِهَا وَاَوْبَارِهَا وَاَشْعَارِهَا اَثْنَا وَمَتَعْنَا اِلَى حِينٍ
٨٠ وَاللّٰهُ جَعَلَ لَكُمْ مِمَّا خَلَقَ ظِلَالًا وَجَعَلَ لَكُمْ مِنَ
الْجِبَالِ اَكْنَانًا وَجَعَلَ لَكُمْ سَرَابِيلَ تَقِيكُمُ
الْحَرَّ وَسَرَابِيلَ تَقِيكُمُ بَاسِكُمْ كَذٰلِكَ يُتِمُّ نِعْمَتَهُ
عَلَيْكُمْ لَعَلَّكُمْ تَسْلَمُونَ ٨١ فَاِنْ تَوَلَّوْا فَاِنَّمَا عَلَيَّكَ
الْبَلٰغُ الْمُبِينُ ٨٢ يَعْرِفُونَ نِعْمَتَ اللّٰهِ ثُمَّ يُنْكِرُوهَا
وَاَكْثَرُهُمُ الْكٰفِرُونَ ٨٣ وَيَوْمَ نَبْعَثُ مِنْ كُلِّ اُمَّةٍ
شٰهيدًا ثُمَّ لَا يُؤْذَنُ لِلَّذِينَ كَفَرُوا وَلَا هُمْ يُسْتَعْتَبُونَ
٨٤ وَاِذَا رَاَ الَّذِيْنَ ظَلَمُوا الْعَذَابَ فَلَا يَخْفَفُ عَنْهُمْ وَلَا هُمْ
يُنظَرُونَ ٨٥ وَاِذَا رَاَ الَّذِيْنَ اَشْرَكُوا شُرَكَاءَهُمْ قَالُوا
رَبَّنَا هٰؤُلَاءِ شُرَكَائُنَا الَّذِيْنَ كُنَّا نَدْعُوْا مِنْ دُوْنِكَ
فَاَلْقُوْا اِلَيْهِمُ الْقَوْلَ اِنَّكُمْ لَكٰذِبُونَ ٨٦ وَالْقَوْلُ اِلَى
اللّٰهِ يَوْمَ يَذِيْقُ السَّلْمَ وُضِلَّ عَنْهُمْ مَا كَانُوْا يَفْتَرُوْنَ ٨٧

80 アッラーは、あなたがたが石などを用いて建設する家に、安定と安らぎを授けた。またラクダや牛や羊の革からは、定住用の家のような遊牧テントを授けた。あなたがたはそれを、場所の移動のための旅行中、容易に運ぶことが出来るし、停泊の際には簡単に設営することも出来る。また羊、ラクダ、山羊の毛からは、家具や衣類や寝具を授けてくれたのであり、あなたがたはそれらを一定期間楽しむことが出来る。

81 アッラーは、暑さから逃れるための影を提供する木々や建物を、あなたがたに授けた。また山々には、寒さや暑さや敵から身を守るための小道や洞窟を置いてくれた。また暑さや寒さを防ぐ綿などの衣服や、戦いにおいて互いの威力から守ってくれ、武器が体にまで貫通しない鎧も授けてくれた。アッラーはこのような数々の恩恵の上に、更なる恩恵を授けて下さるが、それはあなたがたが多神教に陥ることなく、アッラーのみに服従するようになるためだ。

82 使徒よ、もしかれらが、あなたがもたらしたものの信仰に背を向けても、あなたは伝達を命じられたことを明確に伝達するだけ。あなたにはかれらを導く責任はない。

83 多神教徒らは、かれらが授かったアッラーの恩恵を知っているし、預言者が違わされたこともその一つである。しかしかれらの多くは感謝もせず、使徒を嘘つき呼ばわりし、かれの恩恵を否定する。

84 使徒よ、アッラーが全ての民の内から違わされた使徒を蘇らせ、信仰した者にはその信仰、不信仰だった者にはその不信仰を証言させる日のことを、思い出させよ。その後、不信仰者は不信仰だったことについて言い訳することも出来ず、現世に戻って主を喜ばせる行いすることも出来ない。来世は行いの場所ではなく、清算の場所なのだ。

85 多神教徒の不正者たちが罰を目にする時、かれらから罰が軽減させることも、猶予されることもない。かれらはそこに永遠に入ることになる。

86 多神教徒たちは来世で、自分たちがアッラーをよそに崇拝していた崇拝物を目にする時、言う。「主よ、かれらは、わたしたちがあなたをよそに崇拝していた者たちです。」かれらは自分たちの罪を肩代わりさせようとしてそう言うのだが、アッラーはそれらの崇拝物に喋らせて、こう言う。「多神教徒たちよ、あなたがたは嘘つきだ。あなたがたはアッラーの崇拝に別のものを並べていた。かれには並べて崇拝するようなものなどないのに。」

87 多神教徒たちは降伏し、アッラーにのみ従う。偶像がアッラーの御許で執り成してくれるという嘘の主張は、かれらから消え失せてしまう。

本諸節の功德:

- 一連のアーヤは、いかなる状態においても、羊やラクダや山羊などの毛を家や家具などに利用することの合法性を示している。
- 多くの恩恵は、多くの感謝とアッラーに対する称賛の理由となる。
- 全ての民に対する証言者は、最も信頼性が高く公正な証言者である。かれらこそは使徒であり、その証言によってかれらの民に対する決定がなされる。
- 鎧に関するアーヤは、敵との戦いにおける助力とするため、装備を準備する必要性の根拠である。

الَّذِينَ كَفَرُوا وَصَدُّوا عَنْ سَبِيلِ اللَّهِ زِدْنَاهُمْ عَذَابًا
فَوْقَ الْعَذَابِ بِمَا كَانُوا يُفْسِدُونَ ﴿٨٨﴾ وَيَوْمَ نَبْعَثُ فِي
كُلِّ أُمَّةٍ شَهِيدًا عَلَيْهِمْ مِنْ أَنْفُسِهِمْ وَجَعَلْنَا بِكَ
شَهِيدًا عَلَى هَؤُلَاءِ وَنَزَّلْنَا عَلَيْكَ الْكِتَابَ تِبْيَانًا لِكُلِّ
شَيْءٍ وَهُدًى وَرَحْمَةً وَبُشْرَى لِلْمُسْلِمِينَ ﴿٨٩﴾ إِنَّ اللَّهَ
يَأْمُرُ بِالْعَدْلِ وَالْإِحْسَانِ وَإِيتَايَ ذِي الْقُرْبَىٰ وَيَنْهَىٰ عَنِ
الْفَحْشَاءِ وَالْمُنْكَرِ وَالْبَغْيِ يَعِظُكُمْ لَعَلَّكُمْ تَذَكَّرُونَ ﴿٩٠﴾
وَأَوْفُوا بِعَهْدِ اللَّهِ إِذَا عَاهَدْتُمْ وَلَا تَفْضُوا الْأَيْمَانَ
بَعْدَ تَوْكِيدِهَا وَقَدْ جَعَلْتُمُ اللَّهَ عَلَيْكُمْ كَفِيلًا إِنَّ
اللَّهَ يَعْلَمُ مَا تَفْعَلُونَ ﴿٩١﴾ وَلَا تَكُونُوا كَالَّذِي نَفَضَتْ
غَزْلَهَا مِنْ بَعْدِ قُوَّةٍ أَنْكَا تَتَّخِذُونَ أَيِّمَاتٍ كَيْ دَخَلُوا
بَيْنَكُمْ أَنْ تَكُونَ أُمَّةٌ هِيَ أَرْبَىٰ مِنْ أُمَّةٍ إِنَّمَا يُلَوِّكُمُ اللَّهُ
بِهِٗ وَيُكَيِّبُ بَيْنَ يَدَيْكُمْ يَوْمَ الْفَيْمَةِ مَا كُنْتُمْ فِيهِ تَحْتَلِفُونَ ﴿٩٢﴾
وَلَوْ شَاءَ اللَّهُ لَجَعَلَكُمْ أُمَّةً وَاحِدَةً وَلَٰكِنْ يَضِلُّ مَنْ
يَشَاءُ وَيَهْدِي مَنْ يَشَاءُ وَلَسْتَ لَنْ عَمَّا كُنْتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٩٣﴾

それをほどこしてばらばらな状態にし、目的を果たさなかつた愚かな女性のように。また、あなたがたの民を敵の民よりも多勢で強力にするために、誓約をお互いに騙し合うための手段としてはならない。アッラーはあなたがたが契約を守るか守らないか、契約の遵守についてお伝えになる。そして審判の日には、あなたがたが現世で意見を違えていたことを明らかにし、正しい者と誤った者、正直者と嘘つきをはっきりとお分けになる。

93 アッラーがお望みになれば、あなたがたを真理において一致した一つの民としたのだが、かれはお望みの者を真理や契約の履行から迷わせ、お望みの者をそれらのことへと導く。そして審判の日、あなたがたは現世でしていたことを尋ねられることになる。

本諸節の功德:

- アッラーの道から阻もうとする不信仰者たちには、不信仰と罪による現世での害悪のために何倍もの罰がある。
- 地上には必ず知識ある正しい人々がいる。かれらが預言者たちの後継者である正しい導きの指導者、その法を守る学者たちである。
- これらのアーヤは、個人・社会・国家にとっての個人的・一般的生活における、ムスリム社会の基礎を決定づけている。
- 賄賂や、契約の不履行のために金品を受領することの禁止。

88 アッラーを否定し、人々をアッラーの道から逸らせる者たちには、われらは罰の上に罰を重ねる。かれらの不信仰には、それが相応しい。それは、かれらがもたらす腐敗と、人々を迷わせる害悪のためである。

89 使徒よ、全ての民に使徒を遣わし、かれらの不信仰、または信仰の状態を証言させる、復活の日を思い出させよ。使徒はかれらの内の者であり、かれらの言葉で話す。そして使徒よ、われらはあなたを全ての民の証言者として遣わした。あなたにクルアーンを下したが、それは合法性と非合法性、褒美と罰など、説明が必要な全てのことを説明するため。われらはそれを、人々が真理へと導かれるために、そしてその内容を信じて実践する者への慈悲、アッラーを信仰する者たちを待ち受ける永遠の安寧についての吉報として下した。

90 アッラーはその僕がアッラーに対する義務と人々に対する義務を果たし、優劣をつけるべきという根拠がなければ裁決において優劣をつけることなく、公正を行うことを命じた。また、任意の施しや不正者への赦しといった義務以外の善行や、近親に必要なものを与えることを命じた。また、下品な物言いなどの醜い言葉、姦淫などの醜い行為を禁じ、イスラーム法が否定する全ての罪を禁じ、人々に対する不正や尊大さを禁じた。このアーヤで命じ、禁じたことであなたがたを戒めるが、それはあなたがたがそれによって教訓を受けるためである。

91 アッラー、または人々と結んだ誓約を遂行せよ。アッラーの誓いによって確認した後に誓約を破ってはならない。あなたがたはアッラーを、自分たちが誓ったことの遂行の証人としたのだ。アッラーはあなたがたの行いをご存知であり、何もかれから隠れることは出来ない。かれはそれに報われるのだ。

92 契約の破棄によって、理性に欠けた愚か者のようにするのはならない。羊毛や綿を大変な思いで紡いだ後、

وَلَا تَتَّخِذُوا أَيْمَانَكُمْ دَخَالًا بَيْنَكُمْ فَتَرِلْ قَدَمٌ بَعْدَ ثُبُوتِهَا وَتَذُوقُوا السُّوءَ بِمَا صَدَدْتُمْ عَنْ سَبِيلِ اللَّهِ وَلَكُمْ عَذَابٌ عَظِيمٌ ﴿٩٤﴾ وَلَا تَشْتَرُوا بِعَهْدِ اللَّهِ ثَمَنًا قَلِيلًا إِنَّمَا عِنْدَ اللَّهِ هُوَ خَيْرٌ لَّكُمْ إِن كُنْتُمْ تَعْلَمُونَ ﴿٩٥﴾ مَا عِنْدَكُمْ يَنْفَدُ وَمَا عِنْدَ اللَّهِ بَاقٍ وَلَنَجْزِيَنَّ الَّذِينَ صَبَرُوا أَجْرَهُمْ بِأَحْسَنِ مَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿٩٦﴾ مَنْ عَمِلَ صَالِحًا مِّنْ ذَكَرٍ أَوْ أُنْثَىٰ وَهُوَ مُؤْمِنٌ فَلَنُحْيِيَنَّهٗ حَيٰوةً طَيِّبَةً وَلَنَجْزِيَنَّهُمْ أَجْرَهُمْ بِأَحْسَنِ مَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿٩٧﴾ فَإِذَا قَرَأْتَ الْقُرْءَانَ فَاسْتَعِذْ بِاللَّهِ مِنَ الشَّيْطٰنِ الرَّجِيمِ ﴿٩٨﴾ إِنَّهُ وَلَيْسَ لَهُ سُلْطٰنٌ عَلَى الَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَلَىٰ رَبِّهِمْ يَتَوَكَّلُونَ ﴿٩٩﴾ إِنَّمَا سُلْطٰنُهُ عَلَى الَّذِينَ يَتَوَلَّوْنَهُ وَالَّذِينَ هُمْ بِهِ مُشْرِكُونَ ﴿١٠٠﴾ وَإِذَا بَدَلْنَا آيَةً مَّكَانَ آيَةٍ وَاللَّهُ أَعْلَمُ بِمَا يُنزِلُ قَالُوا إِنَّمَا أَنْتَ مُفْتَرٍ بَلْ أَكْثَرُهُمْ لَا يَعْلَمُونَ ﴿١٠١﴾ فُلْ نَزَّلَهُ رُوحُ الْقُدُسِ مِن رَّبِّكَ بِالْحَقِّ لِيُثَبِّتَ الَّذِينَ ءَامَنُوا وَهُدًى وَبُشْرَىٰ لِلْمُسْلِمِينَ ﴿١٠٢﴾

94 自分たちの欲望を迫及して、あなたがたの誓約を互いに騙し合うための手段とし、好きな時に破棄したり、好きな時に守ったりするようではならない。そのようなことをすれば、まっすぐな道の上にはっきりと立った後に、足を踏み外してしまうことになる。そしてアッラーの道から迷い、人々をそこから迷わせることによって、何倍もの罰を味わうことになる。

95 契約を破棄し、その履行を放棄するため、アッラーの契約を僅かな代償と取り替えてはならない。現世における勝利と戦利品、来世における永遠の安寧というアッラーの御許にあるものの方が、契約の破棄のために受け取る僅かな代償よりも、よいのである。あなたがたがそのことを知っていたならば。

96 人々よ、たとえたくさんだったとしても、あなたがたのもとにある財産、享楽、安寧といったものは消失する。他方、アッラーの御許にある褒美は永続する。それなのに、どうしてあなたがたは永続するものより、消失するものを好むのか？**われら**は契約において忍耐し、破棄することのない者たちに、かれらが行っていた服従行為への最善の褒美で報いよう。そして一つの善行に対する**われら**の報いは10倍から700倍、それ以上にまで倍増するのだ。

97 男性であれ女性であれ、アッラーを信仰し、イスラームの教えに沿った正しい行いをする者には、**われら**が現世でよい生活を送らせよう。それはアッラーの定めにしたがって、服従行為に導かれることである。また来世においては、かれらが現世で行っていた善行により、かれらに褒美を与えよう。

98 信者よ、あなたがクルアーンを読もうとする時には、アッラーの慈悲から遠ざけられた悪魔の囁きに対して、アッラーからのご加護を乞うのだ。

99 アッラーを信仰し、全ての物事において主のみに委ねる者たちを、悪魔が制圧することは出来ない。

100 悪魔がその囁きによって制圧できるのは、悪魔を友とし、その誘惑に従い、それによりアッラーに何か他のものを並べて崇拜する、多神教徒だけである。

101 アッラーは英知により、クルアーンの中のどの部分が置き換えられるのか、またどの部分が置き換えられないのか、ご存知である。アッラーがクルアーンのあるアーヤの規定を、別のアーヤによって置き換えれば、かれらは言う。「ムハンマドよ、あなたはアッラーに対して嘘をついている。」いや、かれらの多くは、アーヤの置き換えにアッラーのこの上ない英知が潜んでいることを知らない。

102 使徒よ、かれらに言え。「ジブリールがこのクルアーンと共に、アッラーの御許から下された。間違いも改変もない、真理と共に下されたのだ。」それはクルアーンが新たに下され、その一部が置き換えられる度、アッラーを信仰する者たちが信仰の上に堅固になり、真理へ導かれるためであり、またムスリムたちが素晴らしい褒美を頂くことの吉報となるためである。

本諸節の功德:

- 信仰を伴う善行は人生をよいものにする。
- 悪魔の悪から安全な道は、アッラーに助けを乞い、その悪からのご加護を乞うことである。
- 信者はクルアーンをその指針とし、その知識によって育ち、その品性を身に付け、その光を灯とすべきである。それにより、宗教的・現世的物事は正しい状態となる。
- 規定の置き換えは何らかの英知のため、啓示が下っていた時代、クルアーンに起こっていた。それは福利と出来事への配慮と、人間の状況の変化によるものだった。

وَلَقَدْ نَعَلُمْ أَنَّهُمْ يَقُولُونَ إِنَّمَا يُعَلِّمُهُ بَشَرٌ لِّسَانُ
 الَّذِي يُلْحِدُونَ إِلَيْهِ أَعْجَمِيٌّ وَهَذَا لِسَانٌ عَرَبِيٌّ مُبِينٌ ﴿١٣٦﴾
 ﴿١٣٦﴾ إِنَّ الَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ بِآيَاتِ اللَّهِ لَا يَهْدِيهِمُ اللَّهُ
 وَلَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿١٣٧﴾ إِنَّمَا يَفْتَرِي الْكَذِبَ الَّذِينَ
 لَا يُؤْمِنُونَ بِآيَاتِ اللَّهِ وَأُولَئِكَ هُمُ الْكَاذِبُونَ ﴿١٣٨﴾
 مَنْ كَفَرَ بِاللَّهِ مِنْ بَعْدِ إِيمَانِهِ إِلَّا مَنْ أُكْرِهَ وَقَلْبُهُ
 مُطْمَئِنٌّ بِالْإِيمَانِ وَلَكِنْ مَنْ شَرَحَ بِالْكُفْرِ
 صَدْرًا فَعَلَيْهِمْ غَضَبٌ مِنَ اللَّهِ وَلَهُمْ عَذَابٌ عَظِيمٌ ﴿١٣٩﴾
 ذَلِكَ بِأَنَّهُمْ اسْتَحَبُّوا الْحَيَاةَ الدُّنْيَا عَلَى
 الْآخِرَةِ وَأَنَّ اللَّهَ لَا يَهْدِي الْقَوْمَ الْكَافِرِينَ ﴿١٤٠﴾
 ﴿١٤٠﴾ أُولَئِكَ الَّذِينَ طَبَعَ اللَّهُ عَلَى قُلُوبِهِمْ وَسَمِعِهِمْ
 وَأَبْصَرِهِمْ وَأُولَئِكَ هُمُ الْغَافِلُونَ ﴿١٤١﴾ لَاجِرَمَ
 أَنَّهُمْ فِي الْآخِرَةِ هُمُ الْخَاسِرُونَ ﴿١٤٢﴾ ثُمَّ إِنَّ رَبَّكَ
 لِلَّذِينَ هَاجَرُوا مِنْ بَعْدِ مَا فَتَنُوكُمْ لِيُتَّبِعُوا
 وَصَبَرُوا إِنَّ رَبَّكَ مِنْ بَعْدِهَا لَعَفُورٌ رَحِيمٌ ﴿١٤٣﴾

癒しの原因、アッラーがかれらに用意した罰を、おろそかにしているのだ。

●¹³⁹ 審判の日、かれらは信仰の後に不信仰となったことのため、自分自身を損ねた損失者となる。もし信仰を守っていたら、天国に入っていたのだから。

●¹⁴⁰ 使徒よ、心は信仰で安らいでいながらも、不信仰の言葉を発してしまうほどに多神教徒から抑圧を受けた後、マッカからマディナへと移住した立場の弱かった信者たちに対して、主は赦し深く慈悲深いお方である。かれらはアッラーの御言葉が最上のもとなり、不信仰者たちの言葉が最低のものとなるため、アッラーの道において奮闘し、困難を忍んだのである。主は、不信仰の言葉を発してしまうほどまでに、かれらが受けたそのような試練と罰の後、かれらに赦し深く、慈悲深くあるお方。かれらが不信仰の言葉を発したのは、無理強いされたからに他ならない。

本諸節の功德:

● 信仰で心が安らいでいるならば、強制されて表面的に不信仰の言葉を発することは許される。

● 棄教者にはアッラーの怒りと罰が決定づけられる。かれらは来世よりも現世の生活を好んだことで、アッラーの導きから阻まれた。アッラーはかれらの心、聴覚、視覚を塞がれ、審判の日の厳しい罰に対して不注意な者とした。

● アッラーは、信仰し、試練の後に移住し、奮闘することにおいて忍耐した者たちに、赦しと慈悲をお授けになる。

●¹³⁶ われらは多神教徒たちが、「ムハンマドにクルアーンを教えているのは人間だ」と言うのを知っている。かれらは嘘の主張をしている。かれらがそのように思っている言葉は外国語だが、クルアーンは卓越した雄弁さを備えた、明白なアラビア語で下されたのだ。どうして、それを外国人から学んだと考えるのか？

●¹³⁷ アッラーのアーヤがその御許からであると信じない者たちは、その考えに固執している限り、アッラーの導きを得ることはない。かれらにはアッラーに対する不信仰と、アーヤを嘘としていることのために、痛烈な罰がある。

●¹³⁸ ムハンマドは、主からもたらしたものにおいて、嘘をついているのではない。嘘をついているのはアッラーのアーヤを信じない者たちである。かれらは罰を恐れず、褒美も望んではいない。不信仰の特徴をもったそれらの者たちが嘘つきなのであり、嘘がかれらの習いなのだ。

●¹³⁹ アッラーを一旦信仰した後に不信仰となった者の内、心が不信仰で満たされ、自ら不信仰を選び、自発的に不信仰の言葉を発した者は、イスラームを棄てた者。かれにはアッラーからの怒りと、偉大な罰がある。しかし心が信仰にあふれ、その真実を確信しているが、不信仰を強制され、不信仰の言葉を発してしまった者は、その限りではない。

●¹⁴⁰ そのようなイスラームの棄教は、来世を否定する代わりに、現世の享楽を手に入れることを好んだ結果である。アッラーは不信仰の民を導くことはなく、むしろ見放すのである。

●¹⁴¹ 信仰に入った後に棄教した者たちは、アッラーによって心を封じられてしまい、訓戒を得ることがない。またその耳は塞がれ、役立つことを聞くこともない。目も閉じられ、信仰を示す印を目にすることもない。かれらは幸福と

* يَوْمَ تَأْتِي كُلُّ نَفْسٍ بِجَدِيلٍ عَنْ نَفْسِهَا وَتُوْفَىٰ كُلُّ
 نَفْسٍ بِمَا عَمِلَتْ وَهُمْ لَا يُظْلَمُونَ ﴿١١٣﴾ وَضَرَبَ اللَّهُ مَثَلًا
 قَرْيَةً كَانَتْ ءَامَنَةً مَّطْمَئِنَّةً يَأْتِيهَا رِزْقُهَا رَغَدًا مِنْ
 كُلِّ مَكَانٍ فَكَفَرَتْ بِأَنْعُمِ اللَّهِ فَأَذَقَهَا اللَّهُ لِبَاسَ
 الْجُوعِ وَالْخَوْفِ بِمَا كَانُوا يَصْنَعُونَ ﴿١١٤﴾ وَلَقَدْ جَاءَهُمْ
 رَسُولٌ مِنْهُمْ فَكَذَّبُوهُ فَأَخَذَهُمُ الْعَذَابُ وَهُمْ ظَالِمُونَ
 ﴿١١٥﴾ فَكُلُوا مِمَّا رَزَقَكُمْ اللَّهُ حَلَالًا طَيِّبًا وَأَشْكُرُوا
 نِعْمَتَ اللَّهِ إِنْ كُنْتُمْ إِتَّعِبْتُمْ يَعْبُدُونِ ﴿١١٦﴾ إِنْ مَحَرَّمَ
 عَلَيْكُمْ أَلْمِئَةَ وَالْدَّمَ وَحِمَّ الْخَيْزِيرِ وَمَا أَهْلَ لِغَيْرِ
 اللَّهِ بِهِ فَمَنْ اضْطُرَّ غَيْرَ بَاغٍ وَلَا عَادٍ فَإِنَّ اللَّهَ غَفُورٌ
 رَحِيمٌ ﴿١١٧﴾ وَلَا تَقُولُوا لِمَا تَصِفُ أَلْسِنَتُكُمُ الْكُذْبَ
 هَذَا حَلَالٌ وَهَذَا حَرَامٌ لِتَفْتَرُوا عَلَى اللَّهِ الْكُذِبَ إِنَّ
 الَّذِينَ يَفْتَرُونَ عَلَى اللَّهِ الْكُذِبَ لَا يُفْلِحُونَ ﴿١١٨﴾ مَتَّعٌ قَلِيلٌ
 وَلَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ ﴿١١٩﴾ وَعَلَى الَّذِينَ هَادُوا حَرَّمْنَا مَا قَصَصْنَا عَلَيْكَ
 مِنْ قَبْلٍ وَمَا ظَلَمْنَاهُمْ وَلَكِنْ كَانُوا أَنْفُسَهُمْ يَظْلِمُونَ ﴿١٢٠﴾

⑪使徒よ、人間が自分の弁護のためにやって来る日のことを思い出させよ。その日のあまりの状況の厳しさのため、他人の弁護など出来ない。各人は行った善行と悪行の報いを全うされるが、善行を減らされたり、悪行を増やされたりなどの不正は受けない。

⑫アッラーはマッカという一つの町の例を挙げた。その周囲では人々が略奪されている中、そこは安全で、住民は恐怖を感じなかった。また祝福にあふれた糧が、あらゆる場所からそこにやって来た。しかしその住民はアッラーに恩知らずであり、感謝しなかった。かれらは不信仰で嘘呼ばわりをしたため、アッラーはかれらに飢えと激しい恐怖で報いた。その恐怖はかれらの身体にまで露わになり、あたかもかれらの衣服のようになった。

⑬マッカの民には、かれらの内から使徒が到来した。それはかれらの間で誠実で正直な者として知られる、ムハンマドだった。だがかれらは、かれが主から授かったものを嘘としたので、飢えと恐怖というアッラーの罰に襲われた。かれらはアッラーに他のものを並べ、その使徒を嘘つき呼ばわりしたために、自分たちを破滅へと陥らせた。自分たちに不正を働いたのである。

⑭僕たちよ、アッラーから授かった、よい種類の合法的な食べ物を食べよ。そしてアッラーの恩恵を認め、かれのお喜びに合うことに費やすことによって、感謝せよ。もしあなたがたがアッラーに何も並べることなく、かれだけを崇拜しているのなら。

⑮アッラーは屠畜されるものの内、屠畜されなかった食べ物、流れている血液、豚の全部位、アッラー以外のものに犠牲として屠畜されたものを禁じた。この禁止は自ら選択して行う場合に限る。上記のものでも必要に迫られた場合、禁じられたものを望むのでもなく、必要以上のものを摂取するのでもなければ、罪にはならない。アッラーはそれを食することに赦し深く、必要に迫られた時にそれをお許しになる慈悲深いお方。

⑯多神教徒たちよ、アッラーが禁じていないものを禁じ、合法としていないものを合法としようとして、「これは合法であり、これは非合法である」などとアッラーに対する嘘についてはならない。アッラーに対して嘘を捏造する者たちは、目的を果たすこともなく、恐怖から逃げることも出来ない。

⑰現世においてかれらには、私欲の追求による僅かな享楽があるが、審判の日には痛ましい罰が待っている。アッラーはここで、イスラーム共同体に禁じられた食べ物を言及した後、ユダヤ教徒に禁じられた物について取り上げ、こう言う。

⑱われらはユダヤ教徒に、家畜章146節で語って聞かせたものを禁じた。われらは、それらを禁じることによって、かれらに不正を行ったのではない。しかしかれらが罰の原因となるようなことを行っていたために、自分たちに不正を行ったのだ。われらはかれらの侵犯に報い、かれらへの罰としてそれらを禁じたのである。

本諸節の功德:

- 報いは同種のもの。町の住人は恩恵を軽んじたために、その逆のものを与えられた。それは恩恵の消失であり、満腹の後の飢え、平安の後の恐怖と不安、糧の充足の後の減少だった。
- アッラーと使徒たちへの信仰、アッラーのみの崇拜、その数多くの恩恵への感謝の義務。アッラーを否定し反抗した者と、アッラーに対して恩知らずな者には、罰が襲いかかる。
- アッラーが禁じた者は全て悪いものだが、それはかれの思召しであり、全ての悪からの保護のためである。

ثُمَّ إِنَّ رَبَّكَ لِلَّذِينَ عَمِلُوا السُّوءَ بِجَهْلَةٍ ثُمَّ تَابُوا مِنْ بَعْدِ
 ذَلِكَ وَأَصْلَحُوا إِنَّ رَبَّكَ مِنْ بَعْدِهَا غَفُورٌ رَحِيمٌ ﴿١٢١﴾ إِنَّ
 إِبْرَاهِيمَ كَانَ أُمَّةً قَانِتًا لِلَّهِ حَنِيفًا وَلَمْ يَكُ مِنَ الْمُشْرِكِينَ
 ﴿١٢٢﴾ شَاكِرًا لِأَنْعُمِهِ اجْتَبَاهُ وَهَدَاهُ إِلَى صِرَاطٍ مُسْتَقِيمٍ
 ﴿١٢٣﴾ وَإِنَّا أَنبَيْنَاهُ فِي الدُّنْيَا حَسَنَةً وَإِنَّا فِي الْآخِرَةِ لَمِنَ الصَّالِحِينَ
 ﴿١٢٤﴾ ثُمَّ أَوْحَيْنَا إِلَيْكَ أَنْ اتَّبِعِ مِلَّةَ إِبْرَاهِيمَ حَنِيفًا وَمَا كَانَ
 مِنَ الْمُشْرِكِينَ ﴿١٢٥﴾ إِنَّمَا جُعِلَ السَّبْتُ عَلَى الَّذِينَ اخْتَلَفُوا
 فِيهِ وَإِنَّ رَبَّكَ لَيَحْكُمُ بَيْنَهُمْ يَوْمَ الْقِيَامَةِ فِيمَا
 كَانُوا فِيهِ يَخْتَلِفُونَ ﴿١٢٦﴾ ادْعُ إِلَى سَبِيلِ رَبِّكَ بِالْحُكْمَةِ
 وَالْمَوْعِظَةِ الْحَسَنَةِ وَجَدِلْ لَهُم بِالَّتِي هِيَ أَحْسَنُ إِنَّ
 رَبَّكَ هُوَ أَعْلَمُ بِمَنْ ضَلَّ عَنْ سَبِيلِهِ وَهُوَ أَعْلَمُ بِالْمُهْتَدِينَ
 ﴿١٢٧﴾ وَإِنْ عَاقَبْتُمْ فَعَاقِبُوا بِمِثْلِ مَا عُوقِبْتُمْ بِهِ وَإِذْ
 صَبَرْتُمْ لَهُمْ خَيْرٌ لِّلصَّابِرِينَ ﴿١٢٨﴾ وَأَصْبِرْ وَمَا صَبْرُكَ
 إِلَّا بِاللَّهِ وَلَا تَحْزَنْ عَلَيْهِمْ وَلَا تَكُ فِي ضَيْقٍ مِّمَّا يَمْكُرُونَ
 ﴿١٢٩﴾ إِنَّ اللَّهَ مَعَ الَّذِينَ اتَّقَوْا وَالَّذِينَ هُمْ مُحْسِنُونَ ﴿١٣٠﴾

①21 使徒よ、あなたの主は、その結末について無知な者がたとえ故意に罪を犯したとしても、その後アッラーに悔悟し、悪い状態の後に行いを正すのであれば、罪に対しては赦し深く、かれらに対しては慈悲深いお方。自分たちがイブラーヒームの教えのもとにあると思いついでいる多神教徒たちに、アッラーは反論してこう言う。

①22 イブラーヒームは全てのよい特徴を備え、主に対して常に従順で、他の宗教から離れてイスラームだけを奉じる者であり、多神教徒ではなかった。

①23 かれは、アッラーから授かった恩恵に感謝深かった。アッラーはかれを預言者として選び、まっすぐなイスラームの道へと導いた。

①24 また現世においてはかれに、預言者性、素晴らしい賛美、正しい子孫を授けた。そして来世でかれは、天国において高い位階を準備された正しい者たちの一人となる。

①25 使徒よ、その後われらはあなたに、イブラーヒームの教えに従うよう啓示した。それはアッラーの唯一性、多神教徒と無縁であること、アッラーへの誘い、イスラーム法の実践においてであり、他の宗教から離れてイスラームだけを奉じることである。イブラーヒームは多神教徒たちが思いついでるように、多神教徒だったことはない。かれはアッラーだけを崇拜する者だった。

①26 土曜日を偉大だと見なし、仕事をせずに崇拜に没頭することは、そこにおいて意見を異にするユダヤ教徒への義務とされたが、それは崇拜に没頭することを命じられた金曜日から、かれらが迷い去った後のことだった。使徒よ、主は審判の日、かれらが意見を異ならせていたことについて、かれらに裁きを下さす。そして相応しい形で各々に報いるのだ。

①27 使徒よ、あなたとあなたに従う信徒たちは、イスラームの宗教へと招くのだ。招く者の状態、理解力、従順さなどに相応しい形で招き、恐怖や希望をもたらす忠告を用いよ。言葉、考え方、作法において最善の方法で議論せよ。あなたの義務は人々を導くことではなく、伝達すること。主はイスラームの宗教から迷い去った者のことも、そこへと導かれる者のこともよくご存知。かれらのことで悲嘆するのではない。

①28 敵を罰する時には、あなたがたが罰されたように罰し、それ以上の罰を加えてはならない。しかしそうすることが出来るにも関わらず、罰を加えずに忍耐するのなら、それが忍耐する者にとって復讐よりも善い。

①29 使徒よ、だからかれらの害に対して忍耐せよ。忍耐へと導いてくれるのはアッラーのみ。不信仰者があなたから背き去ることを悲しまず、かれらの悪巧みに心悩ますのではない。

①30 アッラーは罪の放棄によってかれを恐れ、服従行為を行い、かれの命令を遂行する善行者たちと共にあり、かれらを援助する。

本諸節の功德:

- 不信仰や罪を行った後、悔悟して行いを正す者の悔悟を、アッラーは受け入れ、その罪を赦す。それはアッラーのご慈悲によるものである。
- ムスリムはイブラーヒームを模範とすべきである。
- アッラーの宗教へと招く者は、次の三つの手法に則る必要がある: 英知、よい訓戒、最善の形での議論。
- 復讐は同等の形であり、それ以上のことをしてはならない。不正を受けた者は不正を行った者に、自分が受けた以上のことを返してはならない。